

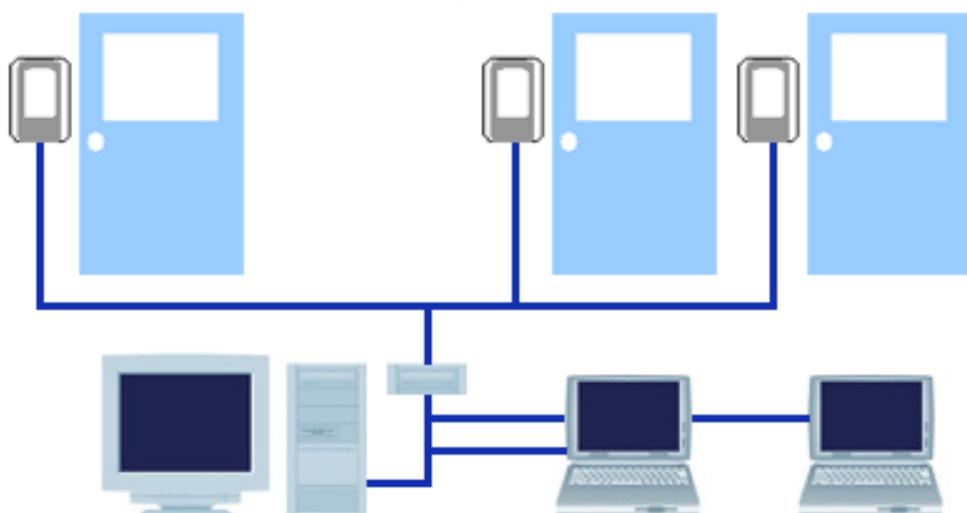
SD-Gate72 管理ソフトウェア

SDM

ご利用の手引き

Ver 1.3.0 / Ver 2.0.0

株式会社 BgenuineTec



本書の内容は予告なしに変更されることがあります。

Windowsは米国Microsoftの登録商標です。

All Right Reserved 2006 株式会社BgenuineTec

目次

1	はじめに(必ずお読みください)	1
1.1	はじめに.....	1
1.2	ご使用にあたって.....	1
2	この製品について	2
2.1	SDMとは.....	2
2.2	動作環境.....	3
2.3	基本的な使用手順.....	4
3	SDM のインストールと起動	6
3.1	SDM をインストールする.....	6
3.2	SDM を起動する.....	7
3.3	2 台以上の PC で SDM を使用する場合.....	8
3.4	SDM をアンインストールする.....	10
4	デバイス管理	12
4.1	SD-Gate72 接続の準備をする.....	12
4.2	デバイスを接続する (SC II の場合).....	15
4.3	デバイスを接続する (SC III の場合).....	20
4.4	デバイスの設定を行う.....	24
5	ユーザ管理	28
5.1	IC カードを登録する.....	30
5.2	指紋を登録する.....	34
5.3	アクセス権限を登録する.....	37

5.4 ユーザを更新する.....	42
5.5 ユーザを削除する.....	42
5.6 ユーザをエクスポート / インポートする.....	43
6 データの転送	46
6.1 同期をとる.....	47
6.2 データベースを複製する.....	50
7 ログ管理	52
7.1 ログを取得する.....	52
7.2 ログをエクスポートする.....	54
7.3 ログを出力する.....	55
7.4 ログを削除する.....	57
7.5 ログを自動的に取得する.....	58
8 勤怠レポートの作成	61
8.1 勤怠レポートを作成する.....	61
9 データベースの管理	64
9.1 データベース管理ツールを使用する.....	64
10 その他の機能	66
10.1 オペレータを設定する.....	66
10.2 パスワードを変更する.....	67
10.3 データベースの設定を変更する.....	68
10.4 データベースを空にする.....	69
10.5 ユーザデータを抽出する.....	70
10.6 登録ユーザを出力する.....	71

1 はじめに(必ずお読みください)

1.1 はじめに

この度は、SDM をご利用いただきありがとうございます。SDM をご利用になる前に、本書を必ずお読みください。

SDM は SD-Gate72 専用のアプリケーションです。SD-Gate72 を接続したコンピュータでのみ正しくご利用いただけます。SD-Gate72 の取扱いにあたっては、SD-Gate72 に付属の取扱説明書(設置編)および取扱説明書(ユーザ編)を必ずお読みください。

なお、SD-Gate72 以外の指紋・カード認証装置を接続して SDM をご利用いただくことはできませんのでご了承ください。

1.2 ご使用にあたって

お客様が SDM のインストールを行われた場合、次の事項にご同意されたものとさせていただきます。

- ・ 本製品および本製品に付帯するすべての資料の著作権は弊社にあります。
- ・ 本製品は、弊社による本製品の使用許諾によって使用权を得て使用するものであり、本製品のインストール、プログラム、および付帯資料の複製、再配布は禁止されています。ただし、使用权を所有するお客様は、バックアップの目的でのみ複製を一部作成して保持することができます。
- ・ 本製品の改変、組込、逆コンパイル行為は禁止されています。
- ・ 本製品の使用权は、いかなる方法によっても、第三者に貸借、譲渡できません。
- ・ 本製品の消去、破損について、弊社は一切の保証をいたしません。必ずバックアップを保管してください。ただし、本製品配布時の記憶媒体の欠陥により本製品が消去、破損したと弊社が判断した場合は、無償で保証に応じるものとします。
- ・ 本製品の使用によって生じたデータの消失や破損、およびそれに伴って生じた損害に関しては、弊社は一切の責任を負いかねます。

2 この製品について

2.1 SDMとは

SDM は、SD-Gate72 を管理するためのソフトウェアです。SD-Gate72 のユーザやアクセスログの管理、SD-Gate72 の設定変更などをこのソフトウェアで行うことができます。

※運用上の注意:

SDMでの管理を開始しましたら、ユーザデータの登録・更新・削除はSDMでのみ行い、SD-Gate72本体からは極力行わないでください。データの不整合が発生する原因になる場合があります。

SDMには次のような機能があります。

■ デバイス管理

SD-Gate72 本体のことを、本書では**デバイス**と呼びます。SDM を使用してデバイスの設定や、登録ユーザの管理を行うことができます。

■ ユーザ管理

SD-Gate72 本体にはユーザ情報が記録されるメモリがあります。センサーから指紋やカードの情報が入力されると、その情報と照合を行うしくみになっています。

一方、PCにインストールされたSDMにもデータベースが存在します。SDMでユーザ登録を行うと、ユーザデータはこのSDMのデータベースに登録されます。つづいて同期処理を行うことによって簡単にデバイスへ情報を転送して登録することができるのです。

■ ログ管理

SD-Gate72 で行われた操作は本体内のメモリにログとして記録されます。SDM を使用すると、この記録を回収し管理することができます。回収したログは、SDM に付属の勤怠管理ツールを使用して勤怠表や勤務レポートとして編集することができます。

2.2 動作環境

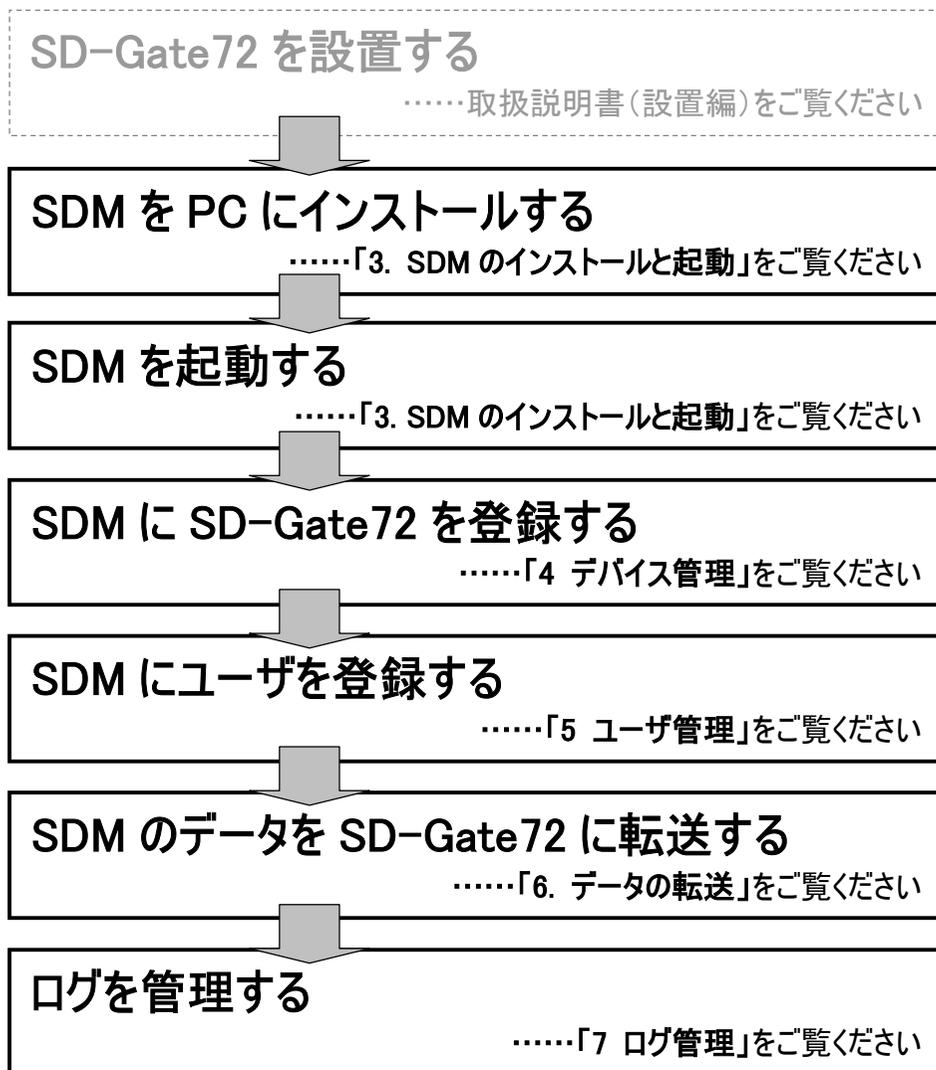
SDM をご利用いただけるコンピュータの環境は次のとおりです。

対応機種	各社 DOS/V パソコン CPU: Pentium 500MHz 以上 メモリ: 128Mb 以上 ハードディスクの空き: 50Mb 以上 ディスプレイ: SVGA カラー600x800 以上 CD-ROM ドライブ搭載
対応 OS	Windows ME/XP/NT/2000/2003

※本書では Windows XP professional を例に説明いたします。ご了承ください。

2.3 基本的な使用手順

基本的な機能と手順は次のとおりです。



その他の機能については、次のとおりです。

勤怠レポートを作成する

……「8. 勤怠レポートの作成」をご覧ください

データベースのバックアップ・リストアを行う

……「9. データベースの管理」をご覧ください

その他の機能について

……「10. その他の機能」をご覧ください

3 SDM のインストールと起動

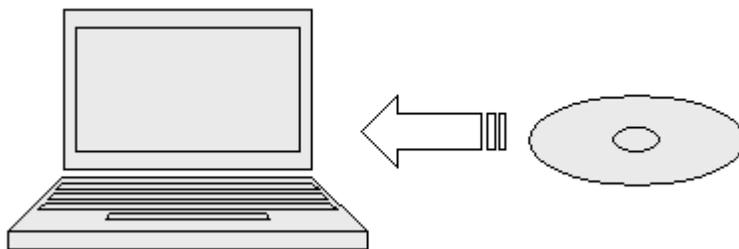
SDM をインストールし、起動してみましょう。

3.1 SDM をインストールする

■ SDM をインストールする

CD-ROM を PC の CD ドライブに挿入します。インストール画面が起動しますので、画面の指示に従ってください。インストール画面が起動しない場合は、CD-ROM 内の SDM1.00.exe を実行し、画面の指示にしたがってインストールしてください。

インストールが完了したら、続いてデスクトップ指紋スキャナの接続を行います。



■ デスクトップ指紋スキャナのドライバをインストールする

インストールした SDM は**デスクトップ指紋スキャナ**がハードキーとなって起動します。このスキャナを接続しなければ SDM を起動することはできません。

デスクトップ指紋スキャナを PC の USB ポートに初めて接続したときは、PC にドライバをインストールする必要があります。インストール方法については、インストールディレクトリ内の SD-Gate FP Scanner Installation Guide.pdf (デフォルトの場合、Windows のスタートメニューより、プログラム > SDM > Installing SD-Gate FP Scanner Guide) をお読みください。



3.2 SDM を起動する

- (1) デスクトップ指紋スキャナが PC に接続されていることを確認し、Windows のスタートメニューより、プログラム > SDM > SDM を選択してください。ログイン画面が表示されます。

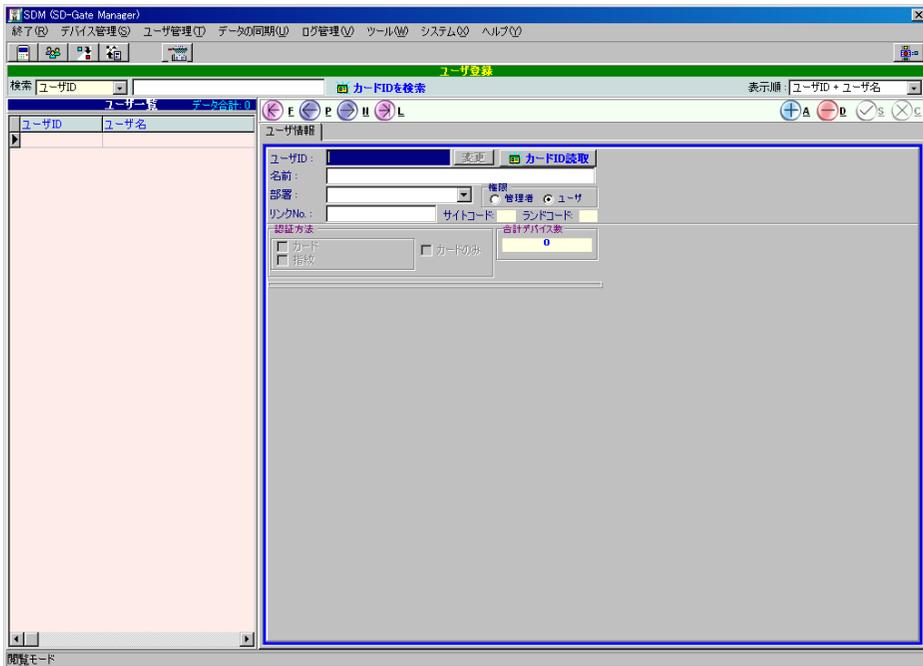


- (2) インストール直後では、次のオペレータが設定されています。

オペレータ名 : admin
パスワード : password

※ ログイン後、ただちにパスワードを変更することを強く推奨します。パスワードの変更は「10.2 パスワードの変更」をご参照ください。

ログインすると、初期画面(ユーザ登録画面)が表示されます。



- (3) SDM を 1 台の PC だけで使用する場合は、「4 デバイス管理」に進んでください。SDM を 2 台

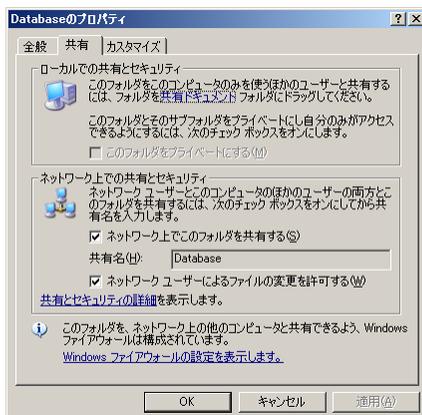
以上の PC で使用する場合は、次の「3.3 2 台以上の PC で SDM を使用する場合」に進んでください。

3.3 2 台以上の PC で SDM を使用する場合

通常、SD-Gate72 の管理は、SDM を使用して1台の PC で行います。2 台以上の PC に SDM をインストールすると、それぞれの PC に SDM のデータベースがインストールされるため、データベースの矛盾が発生してしまいます。そこで、複数の PC で SDM を使用する場合は、1 台の PC に設定した1つのデータベースを、その他の PC の SDM で共有する必要があります。PC と SDM を次のように設定してください。

■ SDM サーバの設定を行う

- (1) 主に使用する PC に SDM をインストールします。(以後この PC を「SDM サーバ」と呼びます。)
- (2) SDM サーバの、SDM インストールディレクトリ内にある[Database]フォルダを「共有」に設定します(デフォルトでは C:\Program Files\SDM\Database)。フォルダを右クリックし、[共有]タブで[ネットワーク上でこのフォルダを共有する]にチェックを入れます。また、[ネットワークユーザーによるファイルの変更を許可する]にもチェックを入れます。



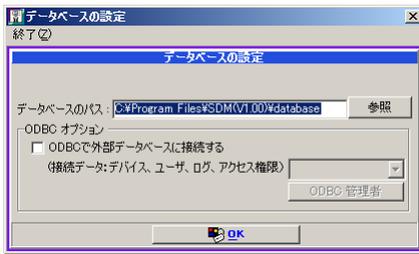
■ SDM クライアントの設定を行う

- (1) 2 台目以降の PC に SDM をインストールします。(以後この PC を「SDM クライアント」と呼びます。)
- (2) SDM の[システム]メニューより、[データベースの設定]を選択します。



- (3) [データベースのパス]の[参照]ボタンを押し、SDM サーバの共有設定した[database]フォルダにパ

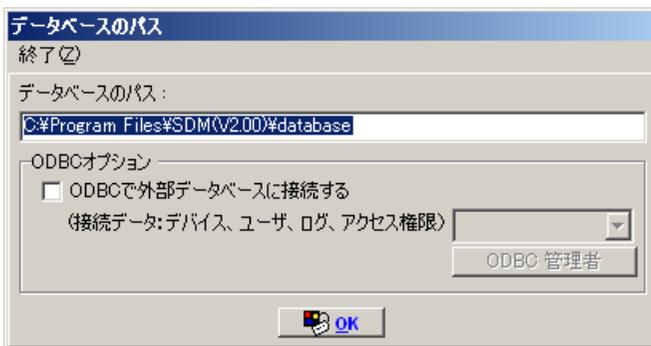
スを変更します。



- (4) SDM の再起動メッセージが表示されます。[OK]をクリックすると、自動的に SDM が終了します。



- (5) SDM を再起動します。ログイン画面が表示されれば、SDM サーバの[database]フォルダへの接続が正常に行われていますので設定完了です。正常に接続されない場合、データベースのパスを再確認する画面が表示されます。



正常に接続されない場合、次のことを確認してください。

- ・データベースのパスは正しいですか？
- ・共有の設定を行いましたか？
- ・お使いの PC で、Windows の Explorer を使用して、指定したサーバの[database]フォルダ内のファイル名を見ることができますか？また、サーバにアクセスする際 ID やパスワードが必要な場合は、サーバにログインしなければ SDM からアクセスできません。ログインしてから SDM を起動するか、サーバのアクセス条件を変更してください。

- (6) 設定が終わりましたら、「4 デバイス管理」に進んでください。

3.4 SDM をアンインストールする

SDM をアンインストールします。

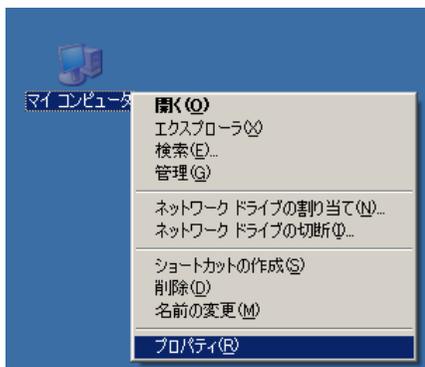
- (1) Windows のスタートメニューより、設定 > コントロールパネル を選択し、[プログラムの追加と削除]をクリックしてください。
- (2) 「現在インストールされているプログラム」から SDM を選択し、削除ボタンを押してください。



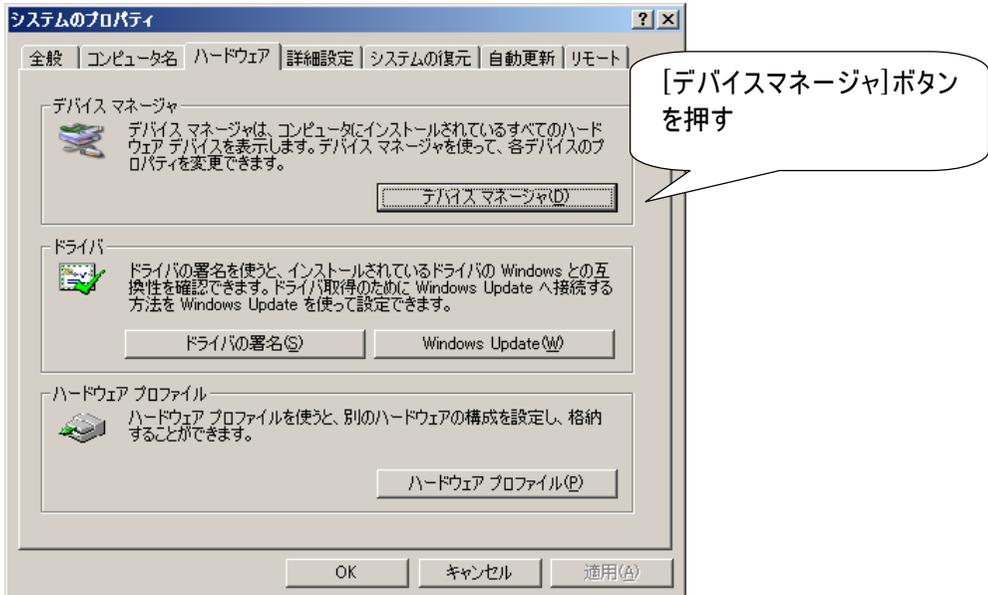
- (3) アンインストールされました。ただし、インストールディレクトリ内に、インストールされたファイルやフォルダ以外のデータが保存してあると、アンインストールが完了してもインストールディレクトリとそれらのデータは消去されずに残りますのでご注意ください。

■ デスクトップ指紋スキャナのドライバをアンインストールする

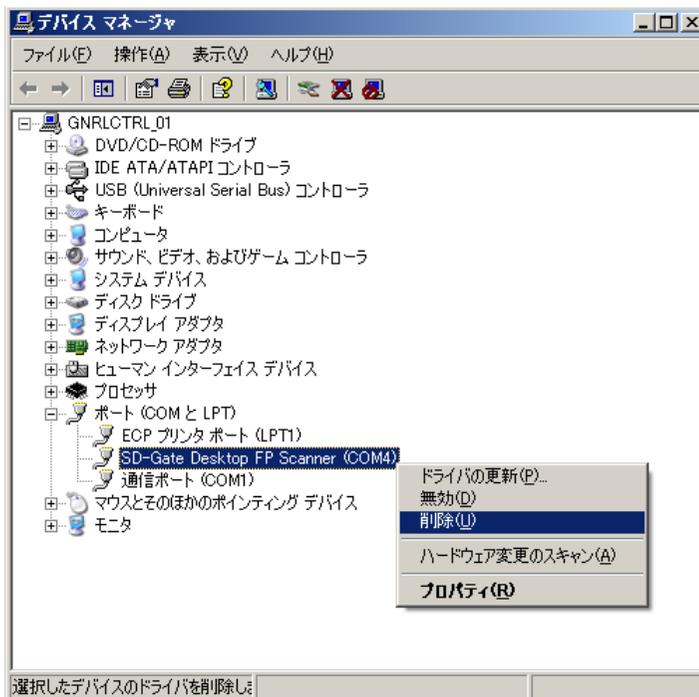
- (1) Windows デスクトップの[マイコンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。



- (2) プロパティ画面の中の[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]ボタンを押します。



- (3) [ポート]の中での[SD-Gate Desktop FP Scanner]を選択し、右クリックメニューより[削除]を選択します。



4 デバイス管理

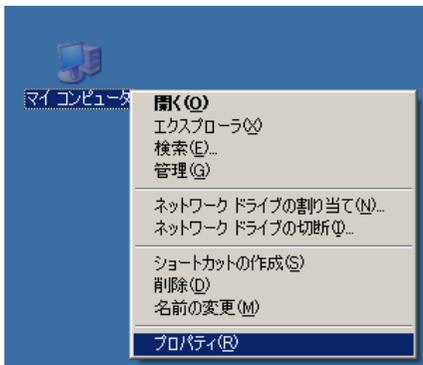
4.1 SD-Gate72 接続の準備をする

SD-Gate72 のことをここでは**デバイス**といいます。デバイスと PC を接続するためには、通信環境を準備する必要があります。SC II の場合はこの後の「**シリアル通信の準備をする**」、SC III の場合は「**イーサネット通信の準備をする**」に従って準備をしてください。

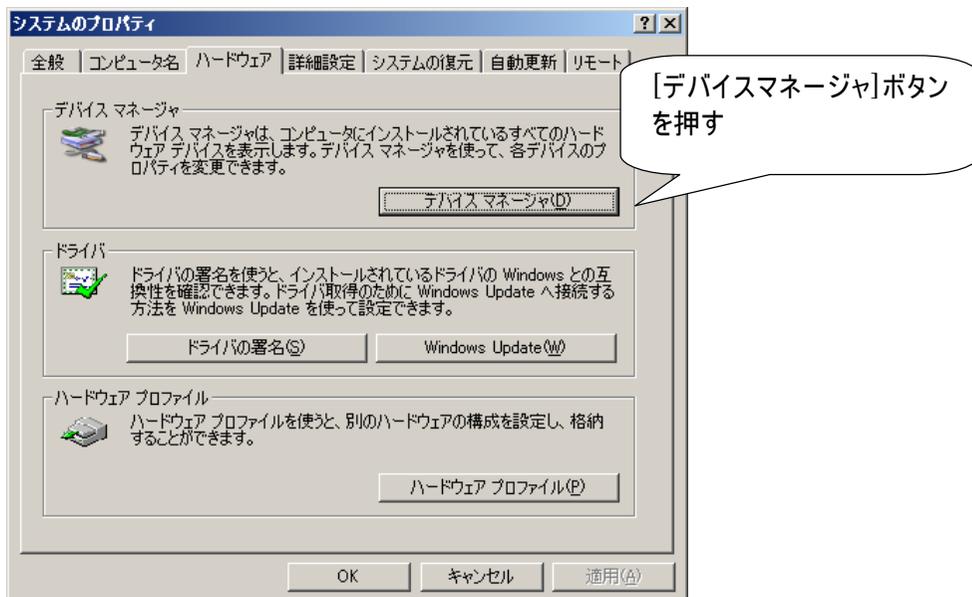
■ シリアル通信の準備をする(SC II の場合)

PC に RS-232C または USB インターフェイスがあることを確認してください。USB を使用する場合は、付属の USB/シリアル変換機の準備を行います。また、SDM で通信を行う **COM** ポートの番号を、事前にチェックしておきます。

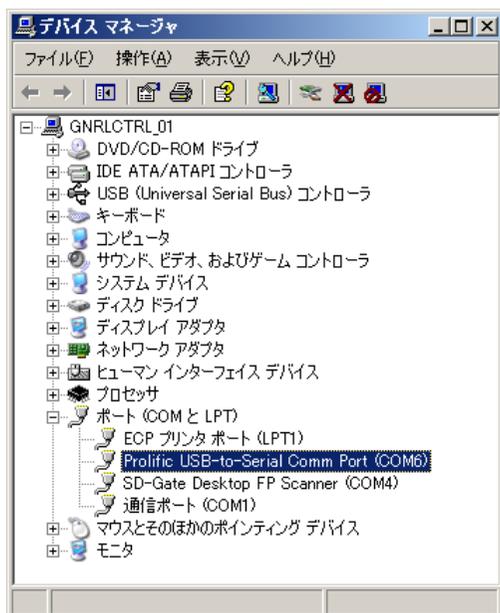
- (1) RS-232C インターフェイスがない場合は、USB/シリアル変換機を PC に接続し、変換機に付属している CD-ROM を使用してデバイスドライバをインストールします。インストール方法については、添付の「USB/232C 変換ケーブルご利用ガイド」をご参照ください。
- (2) Windows デスクトップの[マイコンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。



- (3) プロパティ画面の中の[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]ボタンを押します。



- (4) [ポート]の中の[通信ポート]に割り当てられている番号(下図の例だと[COM1])をメモしておきましょう。USB/シリアル変換器を使用する場合はインストールした変換器[Prolific USB-to-Serial Comm Port]の番号(下図の例だと[COM6])をメモしておきます。この番号は後の「4.2 デバイスの接続(SC II の場合)」で使用します。



準備が整いましたら、「4.2 デバイスの接続(SC II の場合)」へ進んでください。

■ イーサネット通信環境を準備する(SC III の場合)

SD-Gate72と ECom の接続と設置には、次のものが必要になります。

- ・ SD-Gate72 設置場所までの LAN 配線
- ・ SD-Gate72 に割り当てる IP アドレス

準備が整いましたら、「4.3 デバイスの接続(SC III の場合)」へ進んでください。

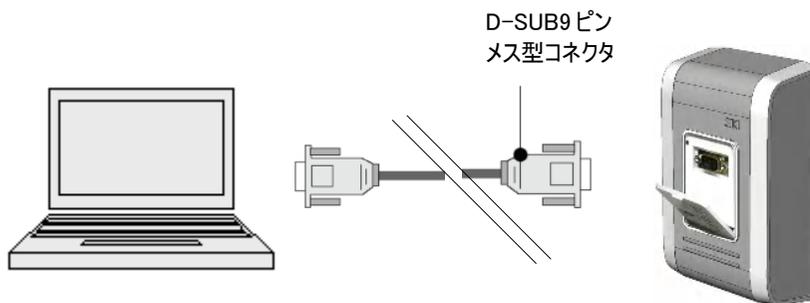
4.2 デバイスを接続する (SC II の場合)

シリアル接続を行います。接続の前に、次のことを確認してください。

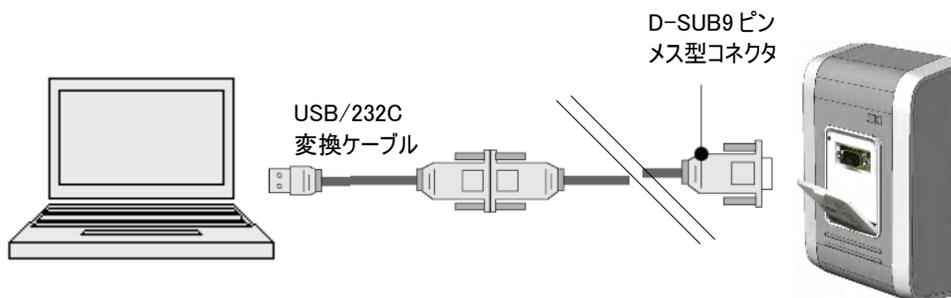
- ・ SD-Gate72 の設置はお済みですか？
- ・ SD-Gate72 に電源は入っていますか？
- ・ SD-Gate72 に管理者を登録しましたか？
- ・ PC にデスクトップ指紋スキャナーは接続されていますか？

確認が終わったら接続します。接続の手順は次の通りです。

(1) SD-Gate72 のコントローラユニットのパネルを開け、PC と SD-Gate72 をケーブルで接続します。



A. RS-232C ケーブルでの接続例



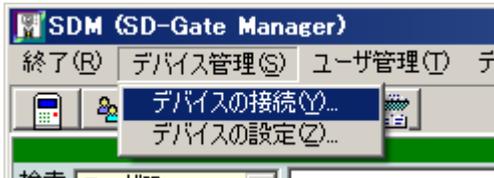
B. RS-232C ケーブルと USB/232C 変換ケーブルを使用した接続例

(2) PC で SDM を起動します。ログインの初期値として、**オペレータ:admin**、**パスワード:password**

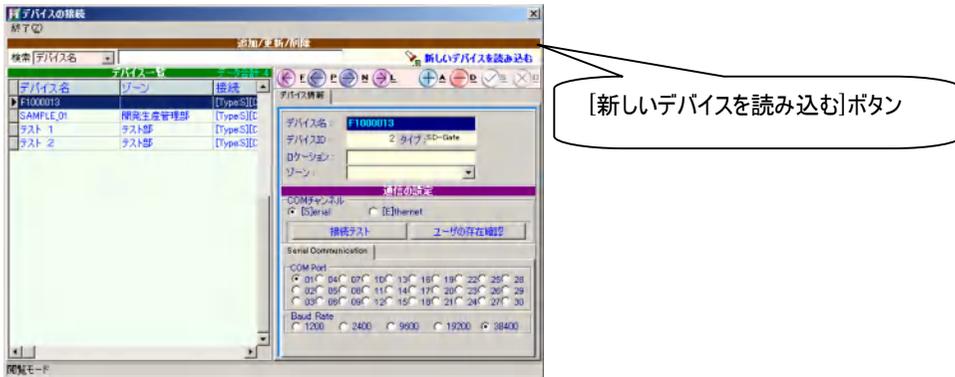
が設定されています。(※注意:ログイン後、ただちにパスワードを変更してください。)



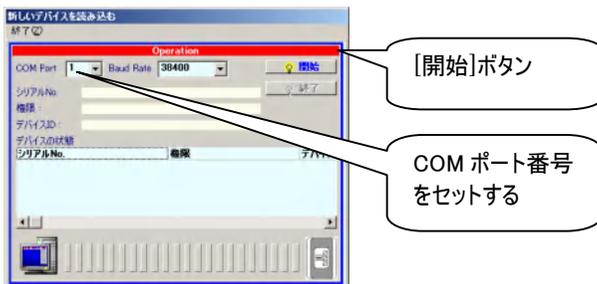
(3) SDM の[デバイス管理]メニューから[デバイスの接続]を選択してください。



(4) [新しいデバイスを読み込む]ボタンを押します。



(5) SD-Gate72 の接続に使用している COM ポート番号をセットし、[開始]ボタンを押します。



(6) 次に、SD-Gate72 のコントローラユニットからデバイス ID を発信させるため、ユニットの同期を取ります。(ユニットの同期については、SD-Gate72 本体に付属の取扱説明書(ユーザ編)をご参照

ください。)

スイッチ 1  を2秒間押し、続いてスイッチ1を3回押します。  

- (7) ブザー音が鳴り始めたら、指紋認証ユニットで管理者の認証を行ってください。これでデバイス ID の発信は完了です。
- (8) SDM の[新しいデバイスを読み込む]画面に、接続した SD-Gate72 の情報が表示されたら[終了]ボタンを押してください。これでSD-Gate72の接続に成功し、デバイスの情報がSDMに追加されました。2 台以上の SD-Gate72 を接続する場合は、(1)-(8)を繰り返してください。



SD-Gate72 の情報と
デバイス ID が表示さ
れます

※「新しいデバイスを読み込む」ボタンを押して SD-Gate72 の同期を取ったあと、数分待っても情報が表示されない場合

次の事項をご確認ください。

- ・ COM ポート番号の不一致が考えられます。COM ポート番号を確認してください。
- ・ ケーブル等の接触不良が考えられます。シリアルケーブルを挿し直してください。
- ・ SD-Gate72 への電力供給不足が考えられます。電力の安定している電源に接続しなおしてください。

SC II のデバイス ID について

シリアル接続で SD-Gate72 を SDM で管理する場合、SDM はデバイス ID を使って SD-Gate72 を識別するため、それぞれに固有のデバイス ID が割り当てられる必要があります。

通常はデバイス ID の割り当て処理は、デバイス接続時に自動的に行われます。

■ デバイス ID を自動的に割り当てる場合

SD-Gate72 に PC を接続し、SDM の[デバイス管理]メニューの[デバイスの接続]で、[新しいデバイスを読み込む]ボタンを押した後、前述の手順にしたがってユニットの同期を行います。同期が成功すると、ユニットには自動的にデバイス ID が割り当てられ、SDM はデバイス ID を受信し表示します。SDM の操作については、SDM のヘルプをご参照ください。(※SDM のヘルプとは、SDM のメニューで「ヘルプ」を選択して起動するオンラインヘルプのことです。)

■ デバイス ID を手動で割り当てる場合

デバイス ID の割り当ては SDM で行います。SDM の[デバイス管理]メニューの[デバイスの接続]で、割り当てたいデバイス ID (1 以上のユニークな数値)を入力します。SDM の詳しい操作については、SDM のヘルプをご参照ください。(※SDM のヘルプとは、SDM のメニューで「ヘルプ」を選択して起動するオンラインヘルプです。)

- (9) [デバイス名]と[デバイス ID]が自動入力されました。[ロケーション][ゾーン]を必要に応じて入力してください。



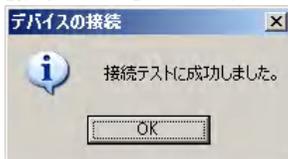
入力例: [ロケーション]…会議室A
 [ゾーン]…………本社1階

※どちらも空白のままでも構いません。[ゾーン]はデバイスを検索する際に使用できる項目ですので、複数のデバイスから検索したい場合には、設定してあると便利です。

■ 手でデバイスを登録する

手でデバイスを登録することもできます。デバイス名を自由に設定したい場合などに使用します。

- (1) SD-Gate72とPCをケーブルで接続します。
- (2) [デバイス名]を入力します。
- (3) [デバイスID]を入力します。重複しないよう、SCIIを1台登録するごとに1, 2, 3, 4, …と連番で付けるのが良いでしょう。
- (4) 必要に応じて[ロケーション][ゾーン]を入力します。
- (5) COMポート番号を入力します。
- (6) 保存ボタン  を押します。
- (7) [接続テスト]ボタンを押し、接続できることを確認してください。



※接続が成功しない場合

次の事項をご確認ください。

- ・ COM ポート番号の不一致が考えられます。COM ポート番号を確認してください。
 - ・ デバイス ID の付与が適切でない可能性があります。登録してある SCII のデータをいったん削除し、再度デバイス登録を行ってし直してください。（デバイス登録を削除すると、そのデバイスへのユーザアクセス権限も削除されます。再登録後はアクセス権限の付与を再度行ってください。）
-
-

4.3 デバイスを接続する（SC III の場合）

イーサネット接続を行います。接続には、次の作業が必要です。

- ・ ECom の設定を行う
- ・ SDM の設定を行う

■ ECom の設定を行う

ECom の設定は **telnet** を使用して行います。設定を開始する前に、次のことを確認してください。

- ・ SD-Gate72 の設置はお済みですか？
- ・ SD-Gate72 に電源は入っていますか？
- ・ SD-Gate72 に ECom が接続されていますか？
- ・ ECom は LAN に接続されていますか？

また、複数の SD-Gate72 の ECom 設定を行う場合、1 台だけが LAN に接続されていますか？

（ECom には出荷時にデフォルトの IP アドレスを設定してあります。一度に複数を経路接続すると、IP アドレスがネットワーク内で重複してしまいますので、1 台ずつ接続して設定します。）

- ・ ECom の設定を行う PC は、LAN に接続されていますか？

確認して OK でしたら、接続を開始します。

■注意: スイッチング HUB について

ECom を LAN に接続する際にスイッチング HUB を使用する場合、スイッチング HUB の機種によっては、ECom に接続できない場合がございますのでご注意ください。

動作確認済みスイッチング HUB:

メーカー	型番
Corega	SW05GTV2B
Netgear	FS605 FS516
Dlink	DES1008D DES1024D
Planex	FX-08EU

(1) ECom の設定を行う PC の IP アドレスを 90.0.0.1 に設定してください。(これは、ECom のデフォルト IP が 90.0.0.60 に設定されているためです。)

(2) ECom と PC をイーサネット接続し、ECom にログインして設定を行います。コマンドプロンプトを起動し、

```
>telnet 90.0.0.60
```

と入力してください。(telnet のセッションは約 20 秒通信がないと自動的に切れます。)

(3) ECom へのログインパスワードの入力を促されます。デフォルトのパスワード”astar”を入力します。(※ログイン後、速やかにパスワードの変更をおこなってください。パスワードは 8 文字以内で登録できます。)

```
>Enter Password:astar
```

(4) ログインすると次のような表示が出ます。ECom の IP アドレスを設定するため、“1”を入力してください。

```
*****
ECom Telnet Config
*****
Physical Addr : 00:0A:00:60:00:F5
Ver : 2.50

1. Config Device Parameters
2. Config Server Parameters
3. Change Password
S. Save And Exit
Q. Quit Without Save

Select :
```

(5) 現在の ECom の設定が表示されます。下の方に設定項目が表示されますので”1”の IP を選択します。

```
*****
1 Config Device Parameters
*****
Current :
IP      : 090.000.000.072
Gateway : 001.002.003.004
Port    : 03001
Subnet  : 255.255.255.000 (08)

1. IP
2. Gateway
3. Port
4. Subnet
R. Return

Select :
```

現在の ECom の設定

(6) IP 入力を促されます。設定する IP アドレスを入力します。次に例を示します。

```
>Enter IP:192.168.001.101
```

(7) 同様に”2”の Gateway, “3”の Port, “4”の Subnet を設定します。完了したら、”R”を入力して元の画面に戻ります。

(8) お使いの LAN がクライアント/サーバ型であれば、サーバの IP アドレスを設定します。”2”を入力します。

```
*****
ECom Telnet Config
*****
Physical Addr : 00:0A:00:60:00:F5
Ver : 2.50

1. Config Device Parameters
2. Config Server Parameters
3. Change Password
S. Save And Exit
Q. Quit Without Save

Select :
```

(9) 現在のサーバの設定が表示されます。”1”の IP を選択します。

```
*****
2 Config Server Parameters
*****
Current :
IP      : 090.000.000.099

1. IP
R. Return

Select :
```

(10)サーバの IP アドレスを入力します。次に例を示します。

```
>Enter IP:192.168.001.001
```

(11)完了したら、”R”を入力して元の画面に戻ります。

(12)パスワードを変更するには”3”を選択します。新しいパスワードの入力を促されますので、新パスワードを入力してください。

```
>Enter New Password (Max 8 Char):
```

パスワードの変更が成功したら、次のメッセージが表示されます。

```
Password was changed!
```

ただし、次のステップで保存・終了しないと変更は有効になりませんのでご注意ください。

(13)“S”を入力して設定を保存・終了します。(”Q”を入力すると保存しないで終了します。)

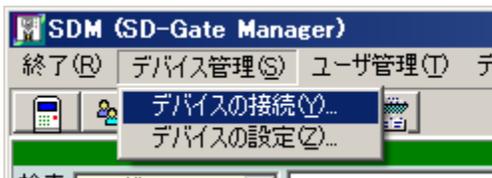
(14)PC の IP アドレスを元に戻します。

■ SDM の設定を行う

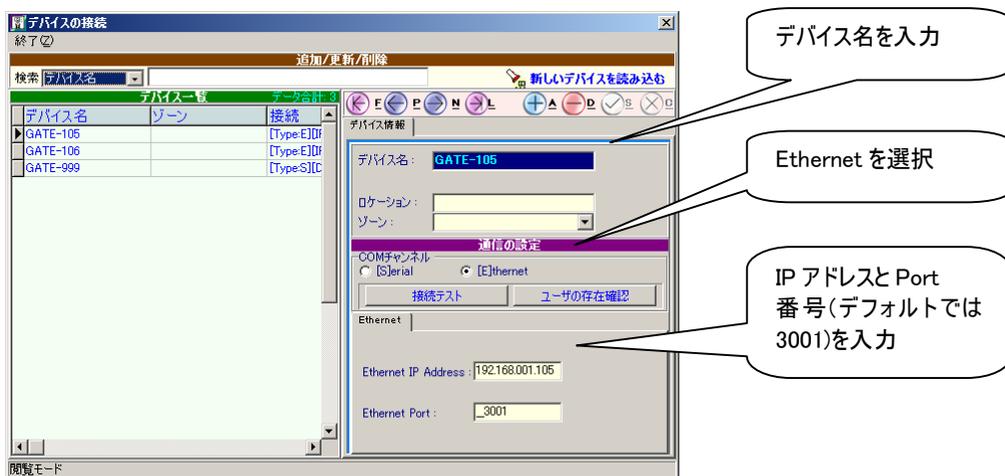
続いて、管理ソフトウェア SDM で SD-Gate72 に接続します。次のことを確認してください。

- ・ PC にデスクトップ指紋スキャナーは接続されていますか？
- ・ PC の IP アドレスを元に戻しましたか？

(1) SDM を起動し、[デバイス管理]メニューより[デバイスの接続]を選択します。



(2) [デバイスの接続]画面でデバイス名を入力し、[通信の設定]で[Ethernet]を選択して、ECom に設定した IP アドレスと Port 番号を入力します。



(3) 必要に応じて、[ロケーション][ゾーン]を入力します。

入力例: [ロケーション]…会議室A
 [ゾーン]………本社1階

※どちらも空白のままでも構いません。[ゾーン]はデバイスを検索する際に使用できる項目ですので、複数のデバイスから検索したい場合には、設定してあると便利です。

(4) [接続テスト]ボタンを押します。接続に成功するとメッセージが表示されます。成功しない場合は、ECom の設定・SDM の設定に間違いがないか、確認してください。

(5) 複数の SD-Gate72 を接続する場合は、(2)、(3)を繰り返します。

4.4 デバイスの設定を行う

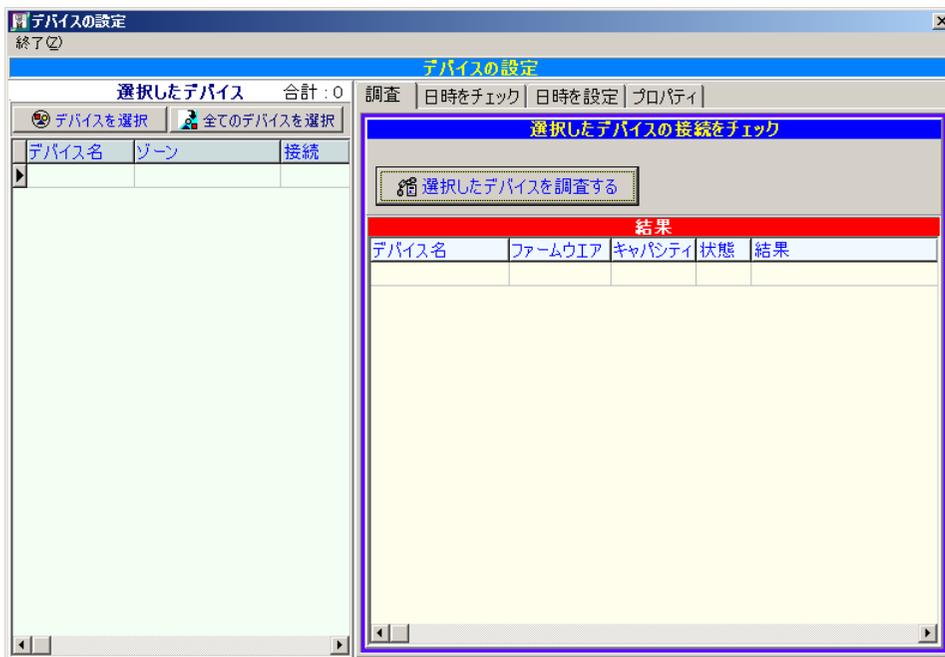
SD-Gate72 本体の時計をセットします。また、保存するログの種類を設定します。

■ SD-Gate72 の時計をセットする

(1) SDM の[デバイス管理]メニューより[デバイスの設定]を選択します。

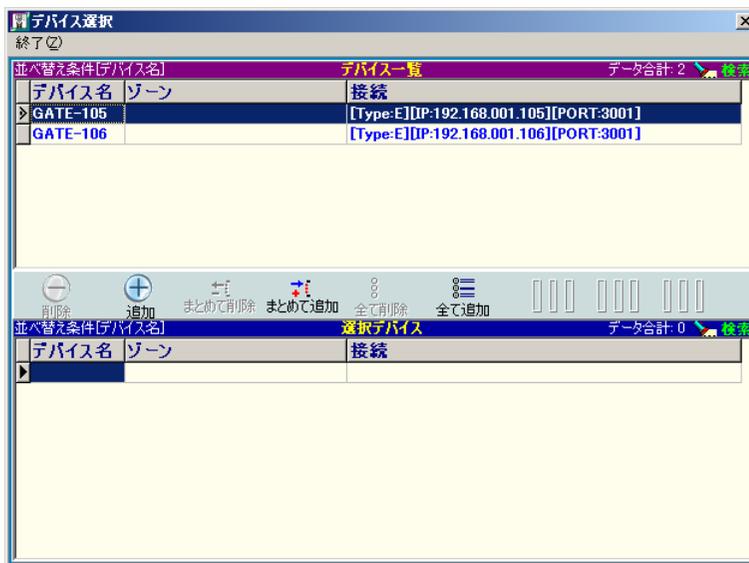


(2) [デバイスの設定]画面が表示されます。画面左上の[デバイスを選択]ボタンを押します。

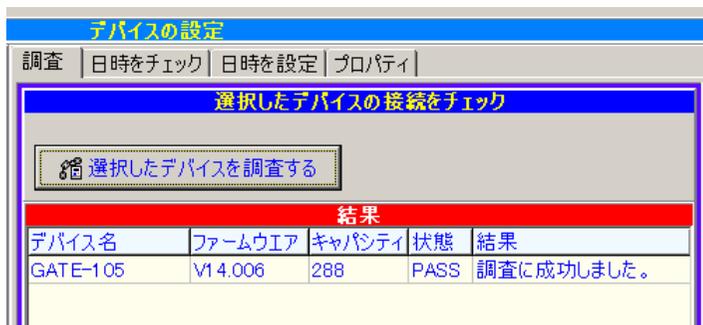


- (3) デバイス選択画面が表示されます。画面上段で、設定を行う SD-Gate72 をクリックして選択し、

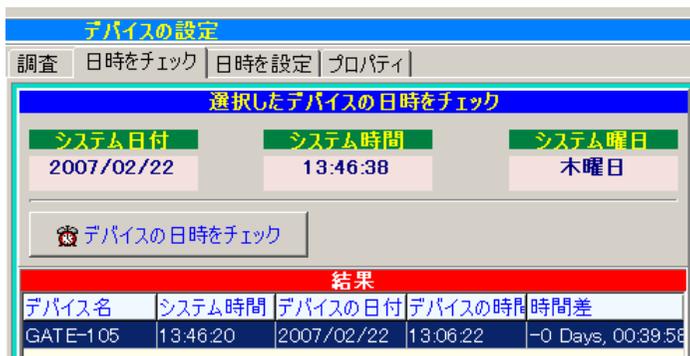
 [追加]ボタン **追加** を押します。



- (4) 画面下段に選択した SD-Gate72 が表示されたら、[終了]をクリックして画面を閉じます。
- (5) [デバイスの設定]画面の右側の[調査]タブを選択し、[選択したデバイスを調査する]ボタンを押します。SD-Gate72 から本体の情報が読み込まれ、表示されます。



- (6) [日時をチェック]タブを選択し、[デバイスの日時をチェック]ボタンを押します。SD-Gate72 本体の時計の時刻(デバイスの日付・時間)と、PCの時刻(システム時間)、本体とPCの時間差が表示されます。



- (7) 時間差を修正するには、[日時を設定]タブを選択し、[デバイスに日時を設定]ボタンを押します。SD-Gate72 に PC の日時が設定されます。



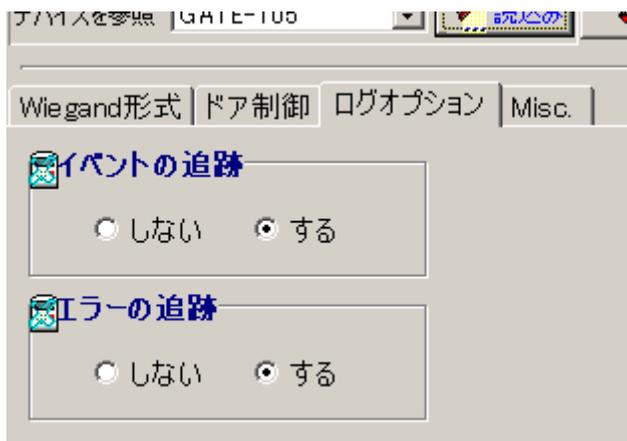
■ 記録するログの種類を設定する

デフォルトの状態では、認証成功時のログのみ保存される設定になっています。必要に応じて、次のログを保存するよう設定を変更することができます。

- (1) [プロパティ]タブを選択し、設定を行うデバイスをドロップダウンリストより選択し、[読み込み]ボタンを押します。選択したデバイスの現在のプロパティが表示されます。



- (2) [プロパティ]タブ内の[ログオプション]タブをクリックします。選択したデバイスの現在のログ保存の設定が表示されます。



- [イベントの追跡] [する]をオンにすると、イベントログが保存されます。リレーイベント(ドアリレー、アラームリレーの動作)、管理イベント(SD-Gate72 本体側での登録やデバイス設定変更など)、警告イベント(ユニットの不正な取り外しなど)が記録されます。
- [エラーの追跡] [する]をオンにすると、エラーログが保存されます。認証エラーが記録されます。

- (3) ログオプションの設定が完了したら、[選択したデバイスに送る]ボタンを押します。ドロップダウンリストで選択されたデバイスへ設定が適用されます。

さらに続けて、同じ設定を別のデバイスにも適用することができます。ドロップダウンリストより、設定を行うデバイスを選択し、[選択したデバイスに送る]ボタンを押します。

5 ユーザ管理

SDM を使用してユーザの登録・更新・削除を行います。

SD-Gate72 のユーザには、次の3通りの認証方法のいずれかを設定することができます。いずれも SDM から登録することが可能です。

(SD-Gate72 本体を操作してユーザ登録を行い、SDM にユーザデータを転送する方法もありますが、データ不整合の原因となる場合があるため、注意が必要です。SD-Gate72 本体でのユーザ登録については取扱説明書(ユーザ編)を、ユーザデータを SDM に転送する方法については、本書の「6 データの転送」をご参照ください。)

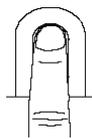
■ IC カードのみ

非接触型 IC カードをかざして認証する方式です。「5.1 IC カードの登録」および「5.3 アクセス権限の登録」を行ってください。



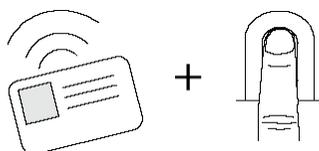
■ 指紋のみ

指をセンサーに置き、指紋で認証する方式です。「5.2 指紋の登録」および「5.3 アクセス権限の登録」を行ってください。



■ IC カードと指紋の組み合わせ(IC カード+指紋)

IC カードを指紋認証ユニットにかざしたあと、指をセンサーに置いて認証を行う方式です。「5.1 IC カードの登録」を行った後、さらに「5.2 指紋の登録」および「5.3 アクセス権限の登録」を行ってください。



■注意: ユーザ登録数について

SD-Gate72 には指紋アカウントとカードアカウントがそれぞれ用意されています。1台の SD-Gate72 に登録できる管理者/ユーザ数は次のとおりです。登録可能数を超えて登録を行うとエラーとなりますのでご注意ください。

管理者

種類	登録可能数
指紋	20
カード	20

ユーザ

種類	登録可能数
指紋	268
カード	326*

*指紋登録ユーザがない場合は最大で 594

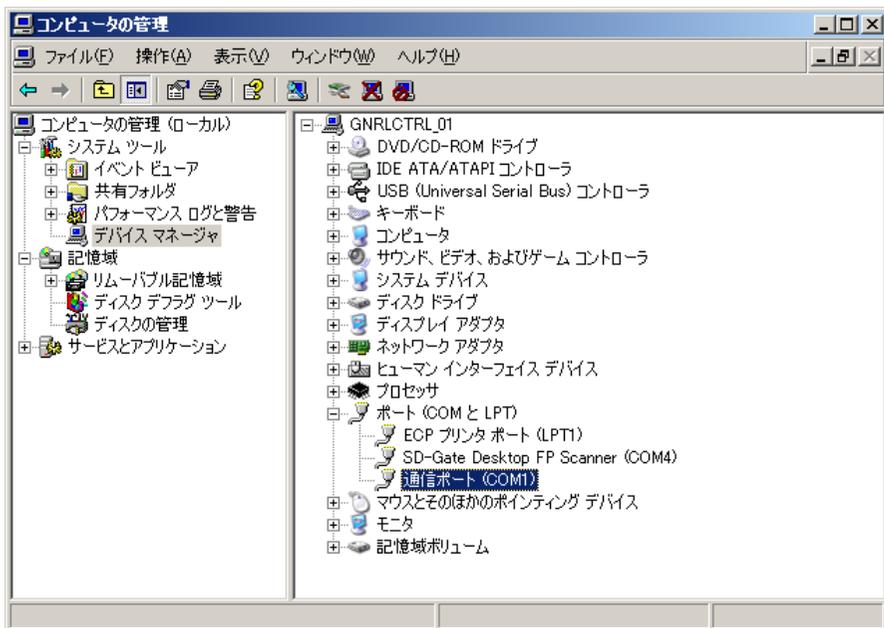
5.1 IC カードを登録する

SDM で IC カードを登録するには、SDM 用 IC カードリーダー（別売品）が必要です。次のステップに従ってすすめてください。



■ SDM 用 IC カードリーダーの設定

- (1) IC カードリーダーに電源を入れ、PC のシリアルポートに接続してください。
- (2) Windows のコントロールパネルの「管理ツール」より「コンピュータの管理」を開いてください。画面左側の一覧から「デバイスマネージャ」を選択し、画面右側の「ポート」の中から、IC カードリーダーの接続に使用している通信ポートをさがし、COM ポート番号を確認してください。下の例だと「COM1」が選択されています。



- (3) SDM の[ツール]メニューより、[カードリーダーの設定]を選択します。

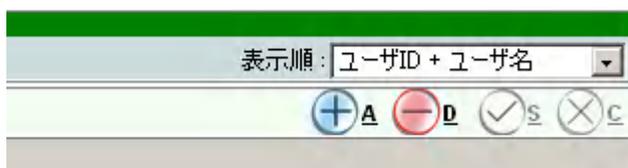


- (4) (2)で確認した COM ポートを選択し、[Mifare Reader]のラジオボタンを選択したら、[終了]をクリックして画面を閉じます。

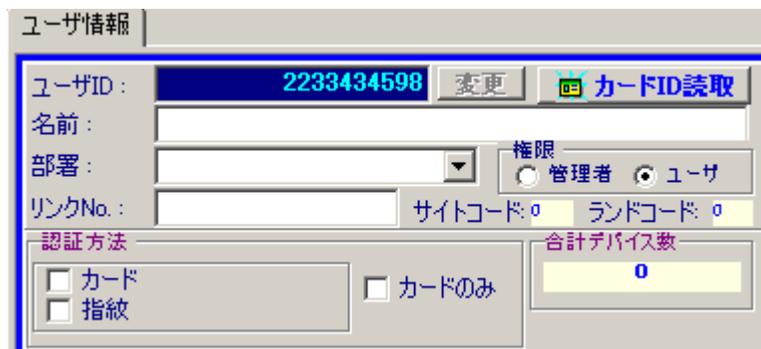


■ IC カードの登録

- (1) SDM にログインすると、まず表示されるのがユーザ管理画面です。右上のユーザ追加ボタン  を押してください。すでに登録されているユーザに IC カードを設定する場合は「既存ユーザへのカードの追加登録」に進んでください。



- (2) [ユーザ ID]の右側の[カード ID 読取]ボタンを押し、登録する IC カードをカードリーダーに置いてください。読み取りが終了すると、[ユーザ ID]欄にカード ID が自動表示されます。



- (3) カード ID が表示されると、下方の[認証方法]欄が入力可能となります。「カードのみ」の認証方式で登録するなら[カードのみ]のチェックボックスにチェックを入れてください。「カードと指紋の組み合わせ」で登録するなら[カード]および[指紋]のチェックボックスにチェックを入れてください。
- (4) その他の項目を入力します。

[権限] このユーザの権限を指定します。[管理者]で登録すると、SD-Gate72 本体の管理モードでの操作を行うことができます。(管理モードについては、SD-Gate72 付属の取扱説明書(ユーザ編)をご参照ください。)

- [名前] 名前を入力します。空欄でも可能です。
- [部署] ユーザの所属部署等を入力します。空欄でも可能です。登録しておく、以降の登録ユーザではプルダウンメニューに表示されるようになり、すばやく入力できます。
- [リンク No.] アクセスログのエクスポート機能(「7.2 ログをエクスポートする」を参照)を使用したとき、ユーザIDの項目にこのリンク No.が設定されます。例えば社員番号を登録しておく、社員番号ごとのアクセスログがエクスポートされるため、他の社員管理システムなどから利用することができます。また、一人のユーザにつき「指紋のみ」と「カードのみ」の2つのユーザアカウントを作成した場合、「カードのみ」のリンク No.に「指紋のみ」のユーザ ID を設定しておく、エクスポートログには同一IDとして出力されます。空欄でも可能です。

- (5) 画面右上の保存ボタン  Sを押します。IC カードの登録はこれで終了です。

「カードと指紋の組み合わせ」で登録する場合は、引き続き「5.2 指紋の登録」に進んでください。

注意: このあと「アクセス権限の設定」と「データの同期」の作業を行うまでは、登録されたユーザ情報は SD-Gate72 本体へはまだ登録されません。「5.3 アクセス権限を設定する」を行った後「6 データの転送」を行ってください。

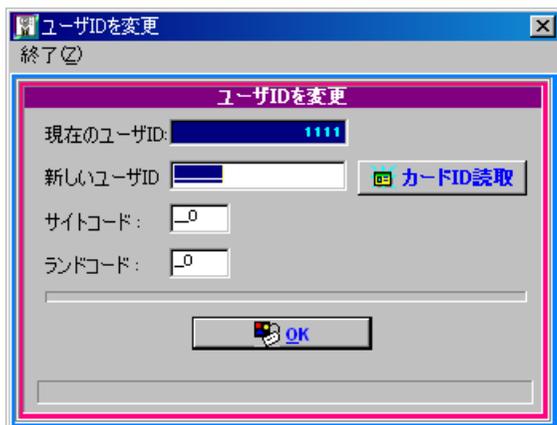
■ 既存ユーザへのカードの追加登録

- (1) [ユーザ ID]の右側にある[変更]ボタンを押します。ユーザ ID 変更画面が表示されます。



The screenshot shows a software interface with two tabs: 'ユーザ情報' (User Information) and 'ユーザのアクセス権限' (User Access Rights). The 'ユーザ情報' tab is active. It contains several input fields: 'ユーザID' (User ID) with the value '1111' and a red '変更' (Change) button to its right; '名前' (Name) with an empty text box; '部署' (Department) with a dropdown menu and a '権限' (Rights) button; 'リンクNo.' (Link No.) with an empty text box and a 'サイトコード' (Site Code) button; and '認証方法' (Authentication Method) with a radio button.

- (2) [カード ID 読取]ボタンを押し、登録する IC カードをカードリーダーに置いてください。読み取りが終了すると、[ユーザ ID]欄にカード ID が自動表示されます。



- (3) [OK]ボタンを押し、ユーザ ID 変更画面を閉じます。

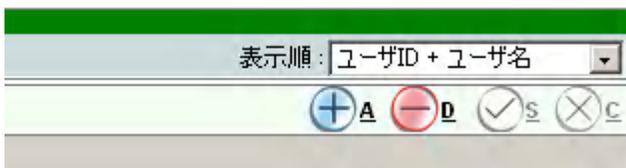
5.2 指紋を登録する

■ ユーザの登録

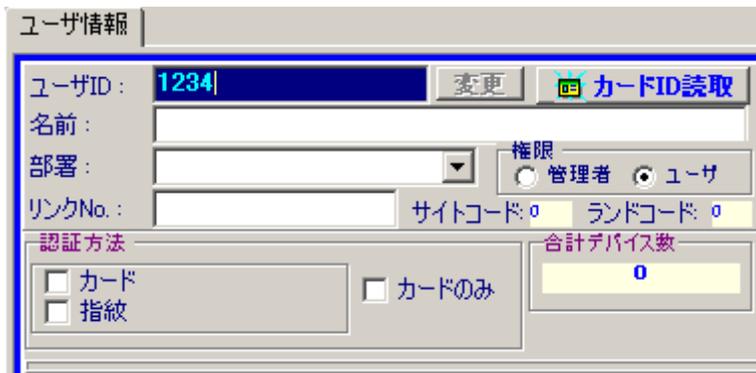
まずはじめにユーザ ID を入力します。先に「5.1 IC カードの登録」でカード ID を登録済みの場合は、このステップをとばして次の「指紋の登録」より進めてください。

- (1) SDM にログインすると、まず表示されるのがユーザ管理画面です。右上のユーザ追加ボタン

 A を押してください。



- (2) [ユーザ ID]の欄にユーザ ID を数字で入力してください。



- (3) ユーザ ID を入力すると、下方の[認証方法]欄が入力可能となりますので、[指紋]のチェックボックスにチェックを入れてください。チェックを入れると、画面下方に指紋登録タブが表示されます。次の「指紋の登録」に進んでください。

■ 指紋の登録

指紋の登録にはデスクトップ指紋スキャナを使用します。次の<正しい指の置き方>を参考にして、登録を進めてください。

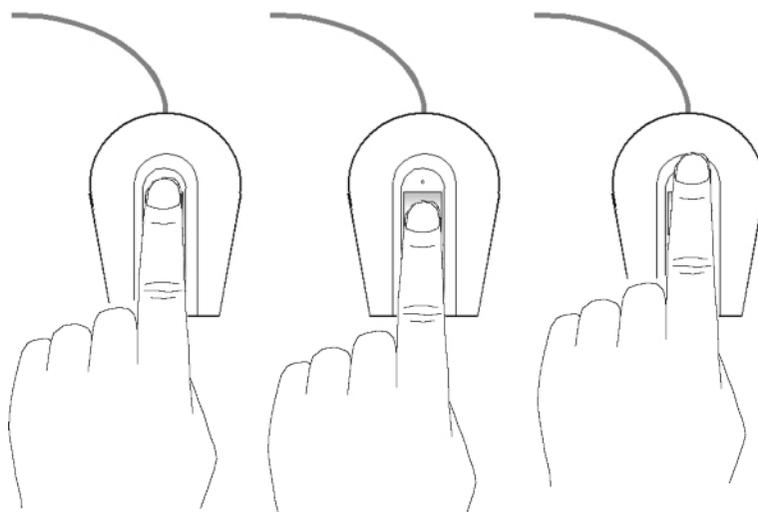
＜正しい指の置き方＞

デスクトップ指紋スキャナで指紋を読み取る際、指を正しくセンサーに置くことは非常に重要です。指を正しく置くことで、SD-Gate72 の認証に必要な指紋の特徴を抽出することができます。次に示す指の正しい置き方の3つのポイントを参考にしてください。

ポイント1: 指をセンサー面に対して水平になるように置いてください。指が曲がっているとセンサーが指紋画像を正確に読み取れません。



ポイント2: センサー面の輪郭(くぼみ)に合わせて指を置いてください。



適切な指の位置



指の位置が低すぎ



指の位置が高すぎ



ポイント3: SD-Gate72 本体で認証する際は、登録の際にデスクトップ指紋スキャナに置いたときと同じ位置に、指を置いてください。

- (1) 画面下方の指紋登録タブには、6 つの指紋が登録できます。まず、[1]のタブをクリックしてください。



- (2) [指紋読込]ボタンを押します。メッセージに従って、指を指紋スキャナのセンサーに置いてください。



- (3) 正しく指紋を読み取れると、指紋の画像が表示され、次のメッセージが表示されます。いったんセンサーから指を離し、再度センサーに指を置いてください。



- (4) 読取に成功すると、成功のメッセージが下方に表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、再度(2)からやりなおします。

このまま継続して複数の指紋を登録することができます。[2]–[6]タブをクリックし、(2)–(4)の作業を繰り返してください。



- (5) 指紋の入力が完了したら、画面右上の保存ボタン  を押します。これで指紋の登録は終了です。

注意：このあと「アクセス権限の設定」と「データの同期」の作業を行うまでは、登録されたユーザ情報は SD-Gate72 本体へはまだ登録されません。「5.3 アクセス権限を設定する」を行った後「6 データの転送」を行ってください。

5.3 アクセス権限を登録する

ユーザにはそれぞれ**アクセス権限**を設定します。どのユーザがどの SD-Gate72 を使用するかを、ここで決定することができます。(注意: アクセス権限を設定しないと、どの SD-Gate72 にもユーザ登録されません。)

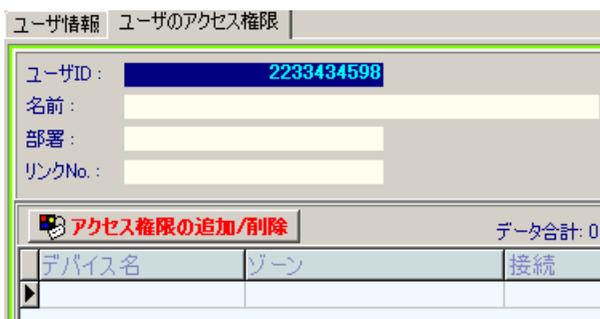
アクセス権限の登録方法は2通りあります。ユーザー人ずつに登録する方法と、SD-Gate72 1 台分をまとめて登録する方法です。

■ ユーザー人ずつにアクセス権限を登録する

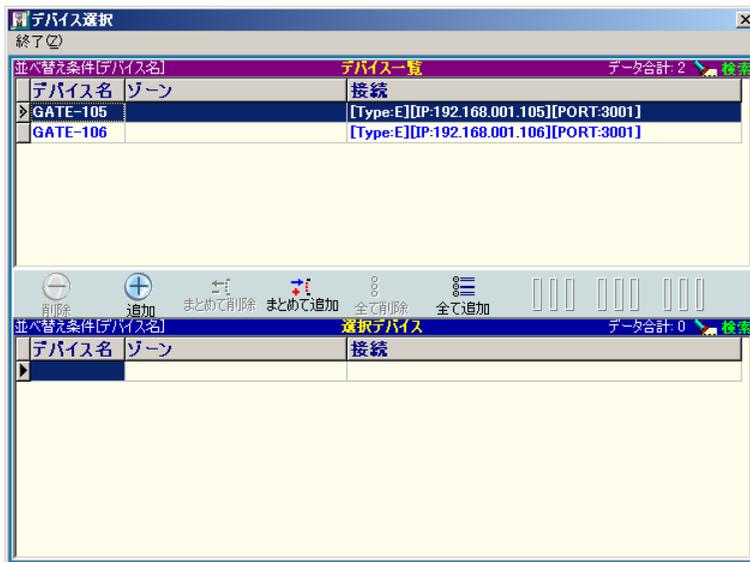
- (1) ユーザ画面左側の[ユーザー一覧]より、アクセス権限を設定するユーザをクリックして選択します。画面右側に、ユーザ情報が表示されます。



- (2) 画面右側の[ユーザー情報]タブのとなりにある、[ユーザのアクセス権限]タブをクリックします。



- (3) [アクセス権限の追加/削除]ボタンを押します。デバイス選択画面が表示されます。



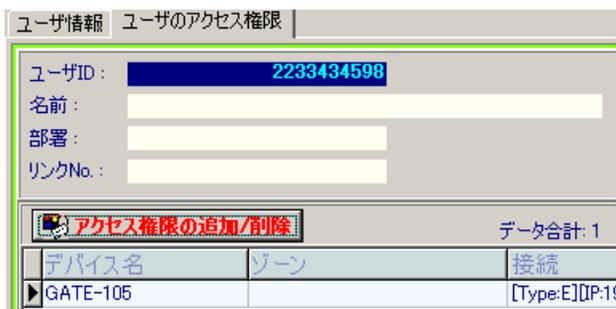
- (4) 画面上段より、このユーザが使用する SD-Gate72 をクリックして[追加]ボタン  を押します。下段には選択したデバイス名が表示されます。

登録済みのアクセス権限を削除したい場合は、画面下段より、削除したい SD-Gate72 をクリッ

クして[削除]ボタン  を押します。

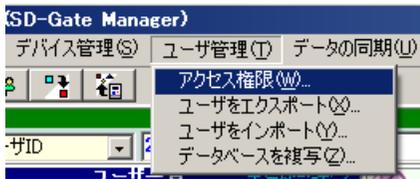
- (5) [終了]をクリックしてデバイス選択画面を閉じます。これでアクセス権限が登録されました。

アクセス権限を登録すると、画面右上に「データの同期を行ってください」というメッセージが表示されます。右隣の[データの同期]ボタン  を押してデータの同期を行うと、アクセス権限を設定した SD-Gate72 にこのユーザ情報が登録されます。データの同期については「6 データの転送」をご参照ください。

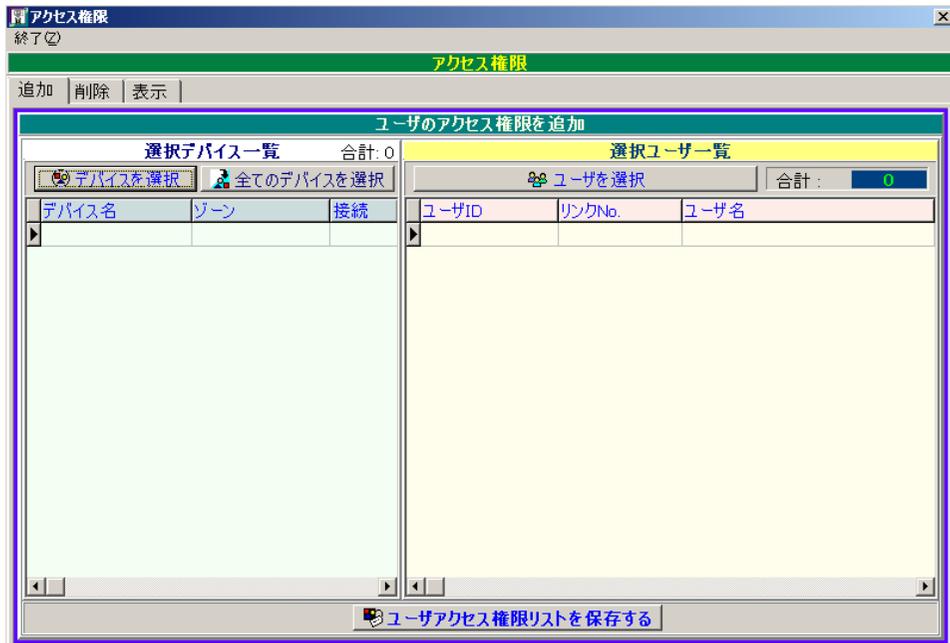


■ SD-Gate 1 台分のアクセス権限をまとめて登録する

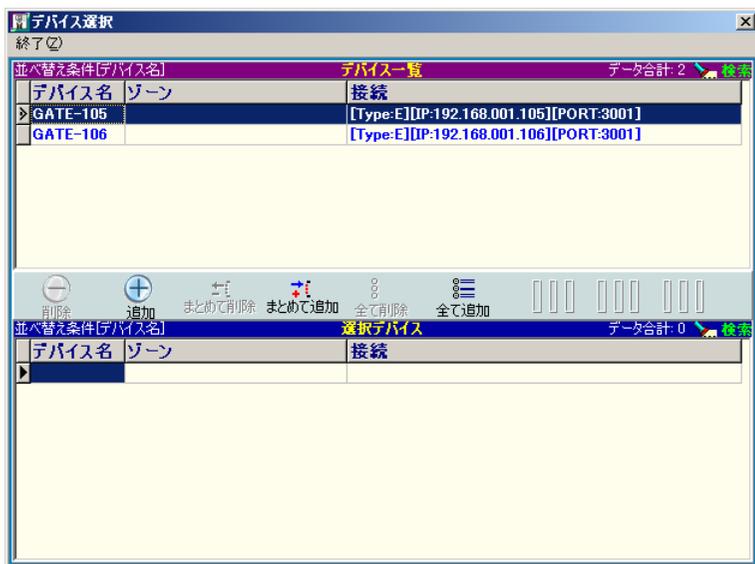
(1) SDM の[ユーザ管理]メニューより[アクセス権限]を選択してください。



(2) アクセス権限登録画面が表示されます。



- (3) 画面左上の[デバイスを選択]ボタンを押します。デバイス選択画面が表示されます



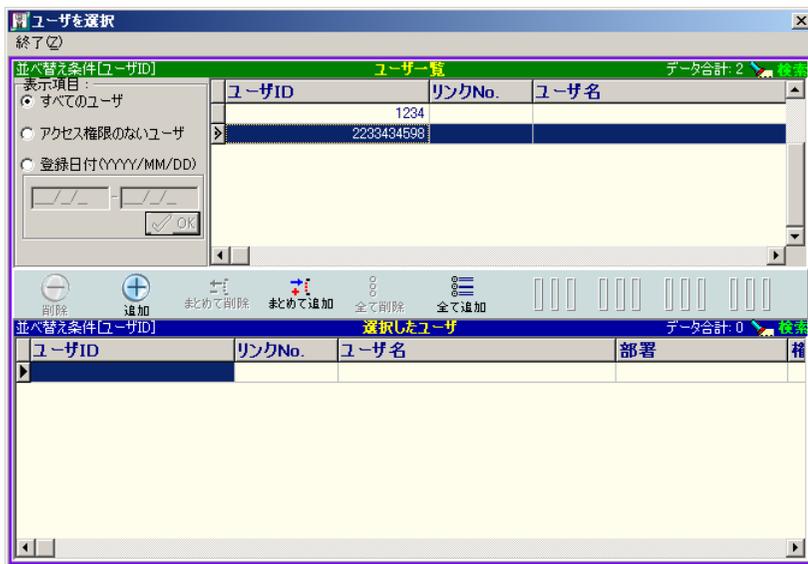
- (4) 画面上段より、アクセス権限の登録を行う SD-Gate72 をクリックして選択し、[追加]ボタン



追加を押します。下段には選択したデバイス名が表示されます。一度に複数のSD-Gate72に設定を行うこともできます。

選択したら、[終了]をクリックしてデバイス選択画面を閉じます。

- (5) 次に、画面右側の[ユーザ選択]ボタンを押します。ユーザ選択画面が表示されます。



- (6) (4)で選択した SD-Gate72 に登録するユーザを画面上段でクリックして選択し、[追加]ボタン



追加を押します。

選択したら、[終了]をクリックしてユーザ選択画面を閉じます。

- (7) アクセス権登録画面の下部にある[ユーザアクセス権限リストを保存する]ボタンを押します。これでアクセス権限の登録が完了しました。

アクセス権限を登録すると、画面右上に「データの同期を行ってください」というメッセージが表示されます。右隣の[データの同期]ボタン  を押してデータの同期を行うと、アクセス権限を設定した SD-Gate72 にこのユーザ情報が登録されます。データの同期については「6 データの転送」をご参照ください。

注意:このあと「6 データの転送」の作業を行うまでは、ユーザ情報は SD-Gate72 本体へはまだ登録されません。SD-Gate72 本体にユーザ登録するには、「6 データの転送」を行ってください。

5.4 ユーザを更新する

ユーザの登録内容を更新します。

(1) ユーザ画面の左側で、更新したいユーザをクリックして選択します。

(2) 画面右側で、更新内容を入力します。

[ユーザ ID] ユーザ ID を変更するには、ユーザ ID 入力欄の右にある[変更]ボタンを押します。ユーザ ID 変更画面が表示されます。IC カードを変更する場合も、この[変更]ボタンから行ってください。

[名前] 随時変更できます。

[部署] 随時変更できます。

[リンク No.] 随時変更できます。

[認証方法] カード ID を変更する場合、または「指紋のみ」から「カードと指紋の組み合わせ」に変更する場合は、ユーザ ID の[変更]ボタンを押し、カード ID の登録を行った後、認証方法を変更します。

「カードのみ」から「指紋のみ」または「カードと指紋の組み合わせ」に変更する場合は、指紋の登録を行ってください。

(3) ユーザ画面右側の[ユーザのアクセス権限]タブをクリックすると、アクセス権限の更新を行うことが出来ます。「5.3 アクセス権限の登録」をご参照ください。

(4) 画面右上の保存ボタン  を押します。これでユーザの更新は終了です。

注意:このあと「6 データの転送」の作業を行うまでは、ユーザ情報は SD-Gate72 本体ではまだ更新されません。SD-Gate72 本体のユーザ情報を更新するには、「6 データの転送」を行ってください。

5.5 ユーザを削除する

ユーザを削除します。デバイスへのアクセス権限も同時に削除されます。

(1) ユーザ画面の左側で、削除したいユーザをクリックして選択します。

(2) 画面右上の削除ボタン  を押します。これでユーザの削除は終了です。

注意:このあと「6 データの転送」の作業を行うまでは、ユーザ情報は SD-Gate72 本体からはまだ削除されません。SD-Gate72 本体のユーザ情報を削除するには、「6 データの転送」を行ってください。

PC にユーザ情報を残したまま、デバイスのユーザ登録を削除することもできます。

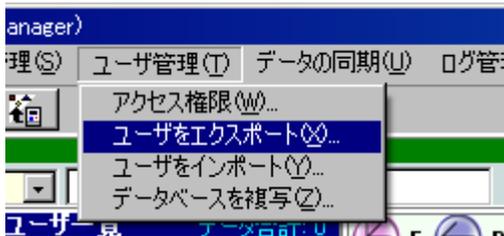
(1) ユーザ画面右側の[ユーザのアクセス権限]タブをクリックし、該当するデバイスへのアクセス権限を削除します。詳しくは「5.3 アクセス権限を登録する」をご参照ください。

5.6 ユーザをエクスポート / インポートする

■ ユーザのエクスポート

ユーザのエクスポート機能を使って、ユーザ情報を CSV ファイルなどに出力します。

(1) SDM の[ユーザ管理]メニューから[ユーザをエクスポート]を選択します。

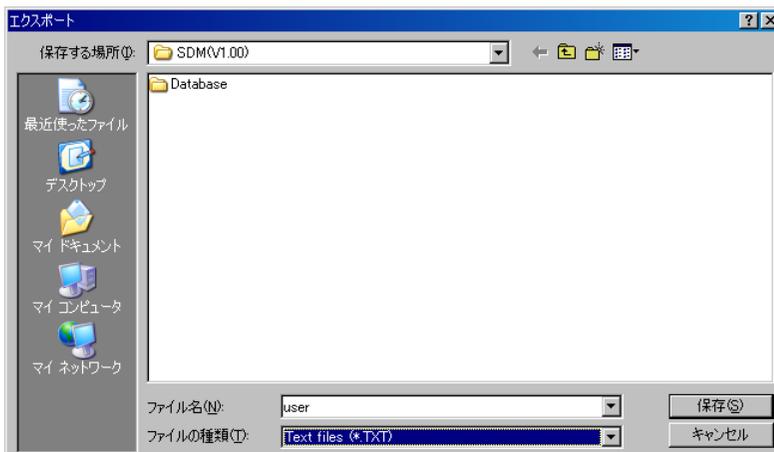


(2) ユーザエクスポート画面が表示されます。出力ファイルの形式、エクスポート項目を選択します。



(3) [エクスポート]ボタンを押します。

(4) エクスプローラ画面が表示されます。出力先のパス・ファイル名を指定し保存ボタンを押します。



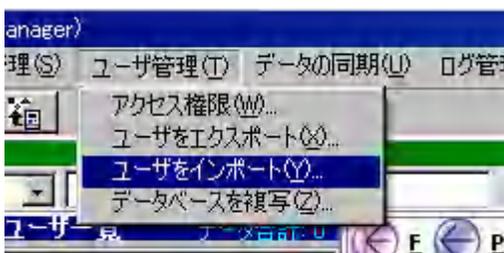
(5) エクスポートが実行されます。

■ ユーザのインポート

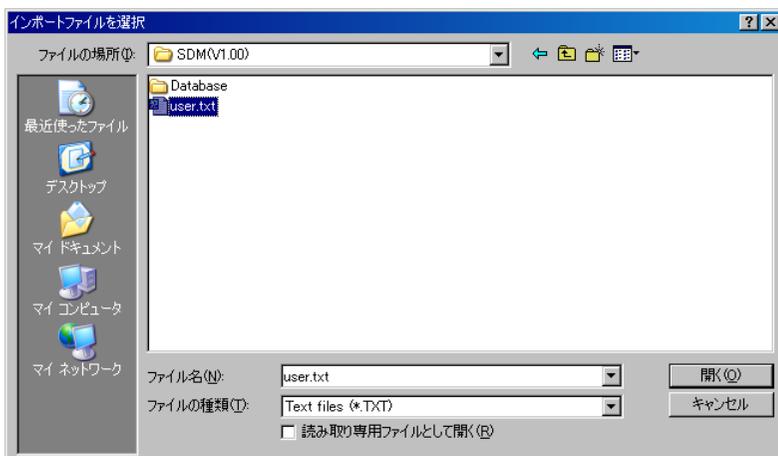
ユーザのインポート機能を使用して、CSV ファイルなどからユーザ情報をインポートします。インポートファイルは次のように作成してください。

[ファイル形式]	CSV または固定長 拡張子は".txt"
[項目]	次の項目をインポートできます。項目の並び順、項目の有無は問いません。 <ul style="list-style-type: none">・ユーザ ID (半角数字 10 文字以内)未入力可・ユーザ名 (半角英数字 50 文字または全角 25 文字以内)未入力可・部署 (半角英数字 20 文字または全角 10 文字以内)未入力可・リンク No., (半角英数字 10 文字以内)未入力可

(1) SDM の[ユーザ管理]メニューから[ユーザをインポート]を選択します。



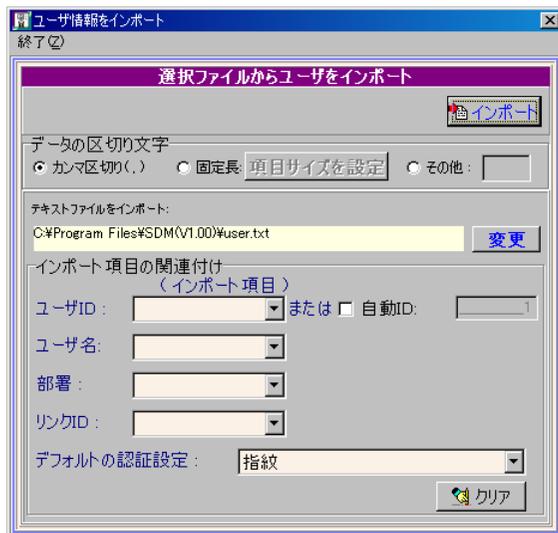
(2) インポートファイルを選択し、[開く]ボタンを押します。



■ インポートファイルの拡張子について

インポートに使用できるファイルは、拡張子が".txt"のファイルです。CSV ファイルで拡張子が".csv"の場合は、".txt"に変更してください。

(3) ユーザインポート画面が表示されます。



[データの区切り文字]

インポートファイルのデータ形式を指定します。カンマ区切りの CSV であれば[カンマ区切り]、カンマ以外の文字で区切った CSV であれば[その他]を選択して区切り文字を入力します。固定長であれば[固定長]を選択し、[項目サイズを設定]ボタンを押して各項目のサイズを入力します。

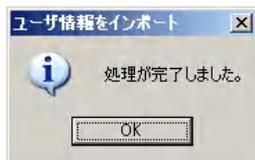
[テキストファイルをインポート]

[変更]ボタンを押し、インポートするファイルを指定します。

[インポート項目の関連付け]

ファイルのデータ形式および項目の関連付けを行います。ユーザ ID をインポートしない場合は、[自動 ID]にチェックを入れると、自動的に連番の付与が行われます。

(4) [インポート]ボタンを押すと、インポート処理が行われます。データ量が多い場合は数秒時間がかかることがあります。



■ インポートがエラーになる場合、次のことを確認してください

- ・ インポートファイルの項目順は、インポート画面で指定した順と合っていますか？
- ・ ユーザ ID に数字でない文字が含まれていませんか？数字の前後に空白(スペース)が入っていませんか？

6 データの転送

SD-Gate72 本体にはユーザ情報が記録されるメモリがあります。センサーから指紋やカードの情報が入力されると、その情報と照合を行うしくみになっています。

一方、PC にインストールされた SDM にもデータベースが存在します。SDM でユーザ登録を行うと、ユーザデータはこの SDM のデータベースに登録されますが、まだ SD-Gate72 本体には転送されていません。転送処理を行うことによって、データは SD-Gate72 本体へ転送され登録されます。

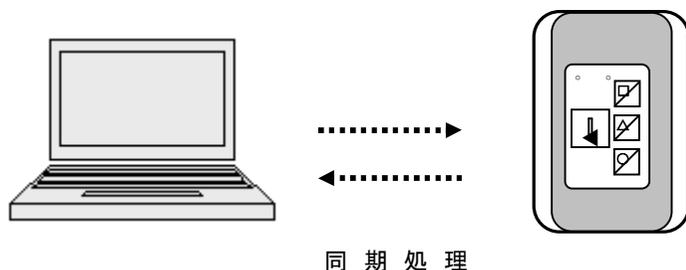
ユーザ情報の更新・削除も同様に、**ユーザデータの転送**を行ってはじめて SD-Gate72 本体に反映されます。

転送するには2つの方法があります。

■ データの同期をとる

SDM で登録・更新・削除したユーザ情報を SD-Gate72 本体に反映します。また、SD-Gate72 本体の操作で登録したユーザ情報を SDM で受け取ります。SDM とデバイスのユーザデータベースを同一の状態に保つための処理です。これを**同期**といいます。

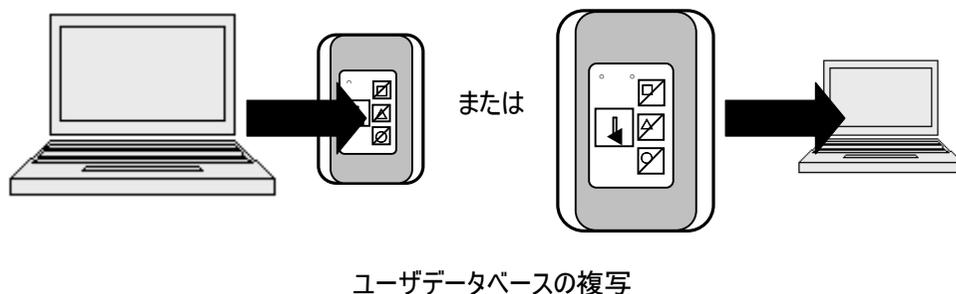
通常はこの方法で転送処理を行います。



■ データベースを複写する

上記の同期処理と違い、SDM のユーザデータベースを SD-Gate72 本体のユーザデータベースに、または SD-Gate72 本体のユーザデータベースを SDM のユーザデータベースに完全に上書きします。上書き先のデータベースに、未同期のユーザ情報が存在した場合は、この処理を行うと消去されます。

SDM と SD-Gate72 本体のデータベースに不整合が発生した場合などに使用する機能です。

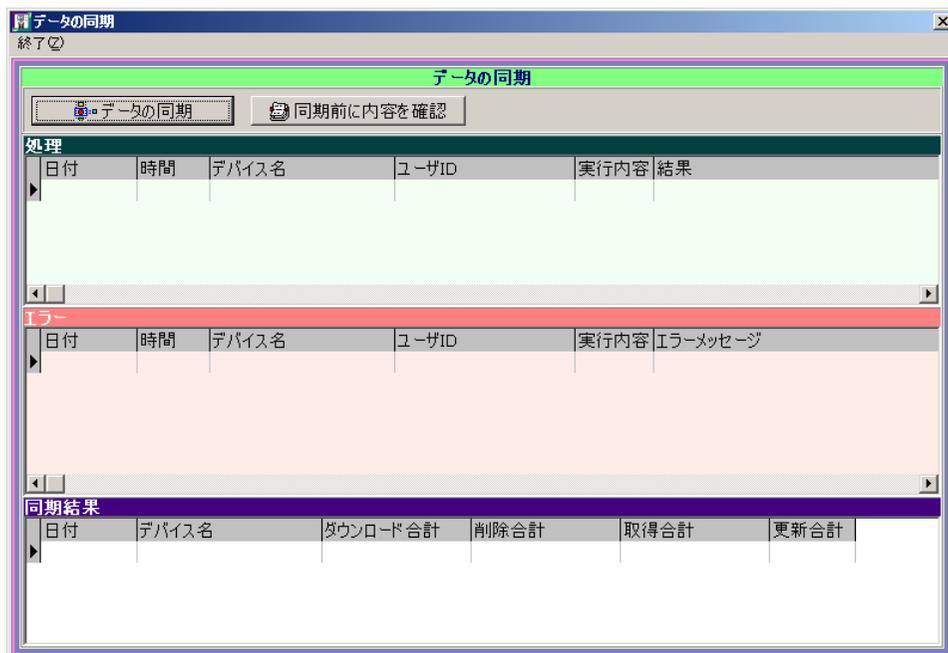


6.1 同期をとる

- (1) SDM のメニューより[データの同期]をクリックします。または画面右上の[データの同期]ボタンを押します。



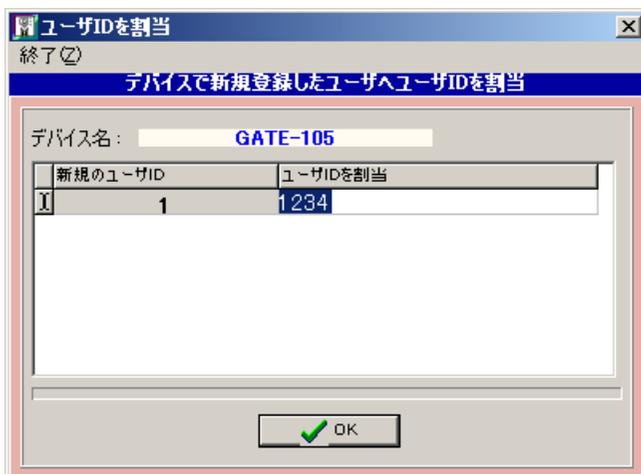
- (2) 同期画面が表示されます。



- (3) [同期前に内容を確認]ボタンを押すと、このあと同期処理を行ったときにデバイスに登録・更新・削除されるユーザを確認することができます。確認してOKでしたら、[終了]をクリックして画面を閉じます。



- (4) [データの同期]ボタンを押すと、同期処理が実行されます。SD-Gate72 本体側でユーザ ID なしで登録されたユーザが存在する場合、SDM 側にデータ転送される際に ID 入力を促す画面が表示されます。[ユーザ ID を割当]のセルにユーザ ID を入力します。



- (5) 同期処理が完了すると、SDM で登録されたユーザ情報がデバイスに転送され、SDM から削除されたユーザは、デバイスから削除されます。処理結果が画面に表示されますので確認してください。エラーの場合はメッセージに従い、登録・削除等をしなおし、再度同期を行ってください。

注意：同期処理は、SDM に登録してあるすべてのデバイスに対して行われます。接続されていないデバイスが登録されている場合は、そのデバイスに対する同期処理はエラーとなります。

The screenshot shows a software window titled "データの同期" (Data Synchronization). The window has a "終了" (End) button in the top-left corner. The main content area is titled "データの同期" and contains a table with the following data:

処理	日付	時間	デバイス名	ユーザID	実行内容	結果
	2007/02/22	17:50:25	GATE-105		903 ADD	成功
	2007/02/22	17:50:25	GATE-105		901 DEL	成功
	2007/02/22	17:50:26	GATE-105		0 UPLOAD	成功(新しいユーザ登録がデバイスに
	2007/02/22	17:50:26	GATE-106		0 UPLOAD	成功(新しいユーザ登録がデバイスに

Below the table is an "エラー" (Error) section with a table:

エラー	日付	時間	デバイス名	ユーザID	実行内容	エラーメッセージ
	2007/02/22	17:50:25	GATE-105		902 ADD	Error[DNLOAD] : Error [1125] 指紋

At the bottom of the window is a "同期結果" (Synchronization Result) table:

同期結果	日付	デバイス名	ダウンロード合計	削除合計	取得合計	更新合計
	2007/02/22	GATE-105		1	1	0
	2007/02/22	GATE-106		0	0	0

6.2 データベースを複写する

SDM のユーザデータベースを SD-Gate72 に、または SD-Gate72 のユーザデータベースを SDM に、完全に上書きします。上書き先のデータベースに、未同期のユーザ情報が存在した場合は、この処理を行うと消去されます。

SDM と SD-Gate72 本体のデータベースに不整合が発生した場合などに使用する機能です。

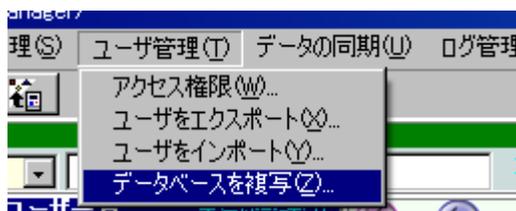
- ・SDM から SD-Gate72 への複写

指定した SD-Gate72 へのアクセス権限を持つユーザ情報が SD-Gate72 側へと上書きされます。

- ・SD-Gate72 から SDM への複写

SDM 側のユーザ情報が上書きされます。複数のデバイスへのアクセス権限を持つユーザであっても、強制的に情報は書き換えられます。

- (1) SDM の[ユーザ管理]メニューより[データベースを複写]を選択します。



- (2) ユーザデータベースの複写画面が表示されます。



- (3) 画面中央部で、ユーザデータベースの上書きを行うデバイスをクリックして選択します。

- (4) 画面最下部で、複写の方向を選択します。



- | | |
|----------------|--|
| [デバイスからユーザー覧へ] | SD-Gate2 本体のユーザーデータベースを SDM に完全に上書きします。SDM に未同期のユーザー情報が存在しても、それらは削除されます。 |
| [ユーザー覧からデバイスへ] | SDM のユーザーデータベースを SD-Gate2 本体のデータベースに完全に上書きします。SD-Gate72 側に未同期のユーザー情報が存在しても、それらは削除されます。 |

- (5) 複写の方向を確認したあと、画面右下の[複写を開始]ボタンを押します。複写が実行されま



7 ログ管理

SD-Gate72 は本体にメモリを内蔵しており、SD-Gate72 でどのような操作が行われたかが記録されます。これをログといい、SDM を使用して PC のログデータベースにコピーして管理することができます。

■ ログの取得

ログを取得するには、次の方法があります。

- ・ログが必要なときに、その都度取得する
- ・常に最新のログを取得する (SCIII の常時接続時のみ)

■ ログをエクスポート

ログを CSV ファイル、固定長ファイルなどに出力します。

■ ログの出力

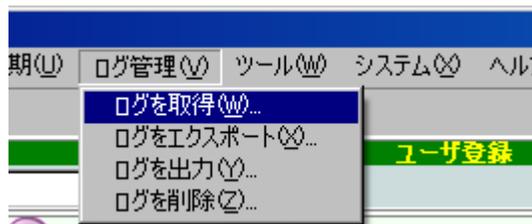
ログをレポート形式で印刷・出力します。

■ ログを削除

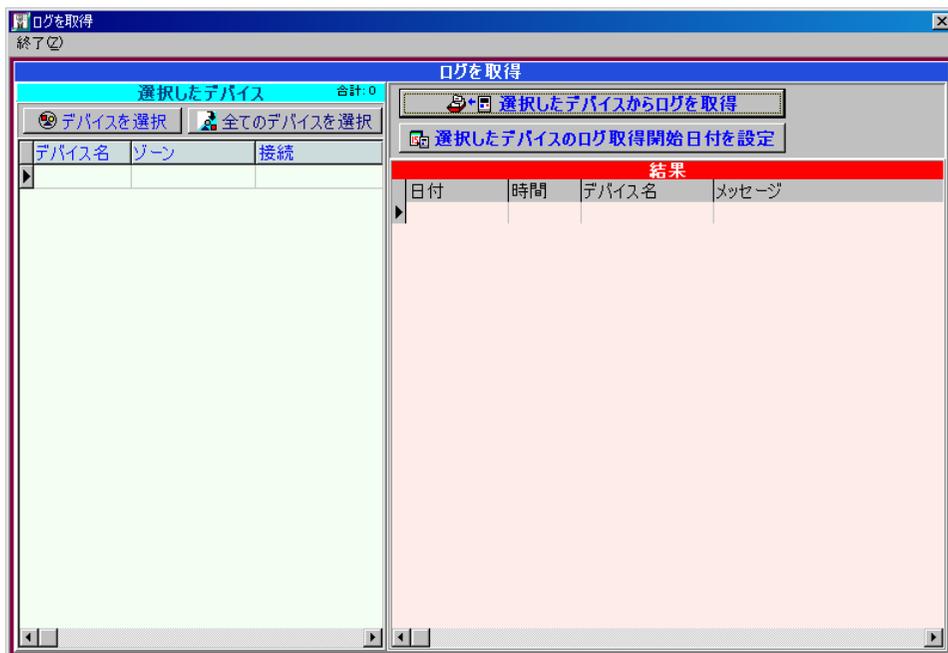
SDM データベースのログを削除します。データ量が多くなった場合に使用します。

7.1 ログを取得する

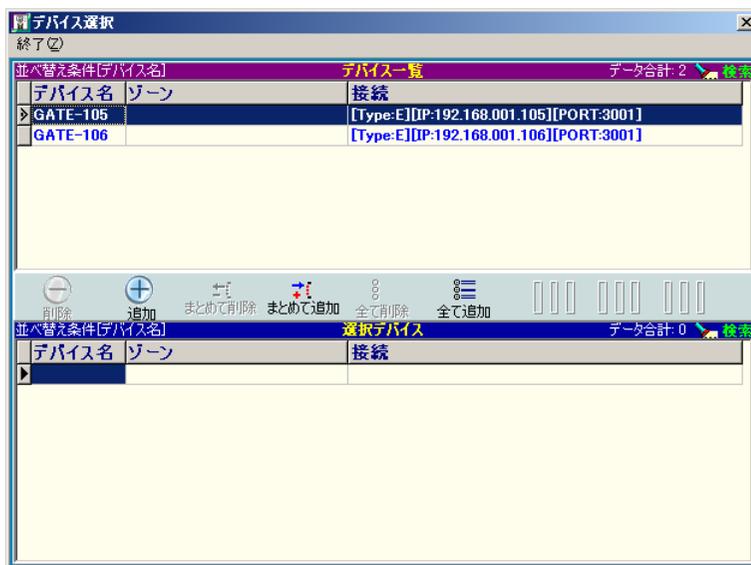
(1) SDM の[ログ管理]メニューから[ログを取得]を選択します。



(2) ログ取得画面が表示されます。



(3) 画面左側の[デバイスを選択]ボタンを押します。デバイス選択画面が表示されます。



(4) 画面上段より、このユーザが使用する SD-Gate72 をクリックして[追加]ボタン  を押します。下段には選択したデバイス名が表示されます。

(5) [終了]をクリックしてデバイス選択画面を閉じます。

- (6) ログ取得画面の右側の[選択したデバイスからログを取得]ボタンを押します。前回取得日時以降に発生したログが、SDM データベースにコピーされます。

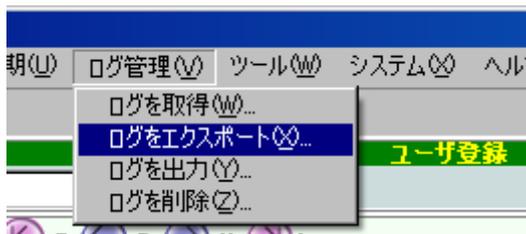
■ ログ件数について

SD-Gate72 本体に保存されるログは 1600 件です。最大数まで達した後は、古い順に上書きされます。SDM による定期的な管理をお勧めします。

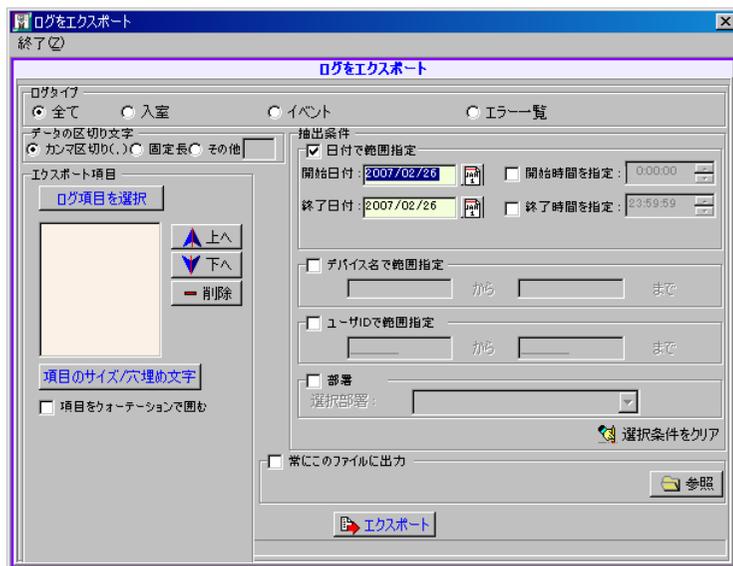
7.2 ログをエクスポートする

ログのエクスポートを行います。テキストファイル、CSV ファイルなどにログデータベースの内容を出力します。

- (1) SDM の[ログ管理]メニューより[ログをエクスポート]を選択します。



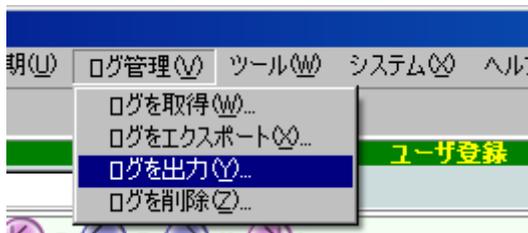
- (2) ログエクスポート画面が表示されます。エクスポートするログの抽出条件・出力先などを設定します。



- ・ログタイプ [入室] 認証成功して開錠したときのログを抽出します。
[イベント] 管理イベント(SD-Gate72 本体側でのユーザ登録やデバイス設定変更等)、リレーイベント(ドアリレー、アラームリレーの動作等)、警告イベント(デバイスの不正な取り外し等)のログを抽出します。
[エラー] 認証エラーのログを抽出します。
注意: デバイスの設定で、イベントログ・エラーログを記録するよう設定されていない場合は、ログは出力されません。デバイス設定については「4.4 デバイスの設定を行う」をご参照ください。
 - ・データの区切り文字 カンマ区切り、固定長、あるいは指定の区切り文字での出力を選択できます。
 - ・エクスポート項目 エクスポートファイルに出力する項目を選択します。
[項目のサイズ/穴埋め文字]のボタンを押すと、項目の長さや、空白を埋めるための文字等を指定できます。
 - ・抽出条件 出力するログを抽出する条件を指定します。
 - ・参照 出力ファイルのパスを指定します。[常にこのファイルに出力]チェックボックスにチェックを入れると、ファイルのパスが記憶されます。
- (3) 条件等を設定し終わったら、画面下部の[エクスポート]ボタンを押します。

7.3 ログを出力する

- (1) SDM の[ログ管理]メニューから[ログを出力]を選択します。ログ出力画面が表示されます。



- (2) ログの出力条件を入力し、[ログを出力]ボタンを押します。ログタイプについては「7.2 ログをエク

サポートする」をご参照ください。



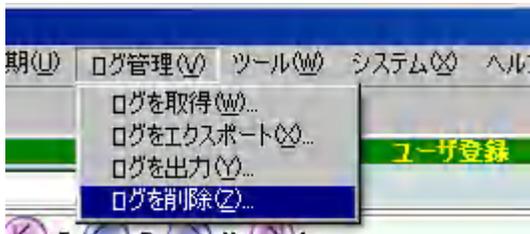
(3) ログの印刷イメージが表示されます。



7.4 ログを削除する

SDM のログデータベースのサイズを縮小したい場合に実行します。

- (1) SDM の[ログ管理]メニューから[ログを削除]を選択します。



- (2) ログの削除条件を入力し、[削除]ボタンを押します。

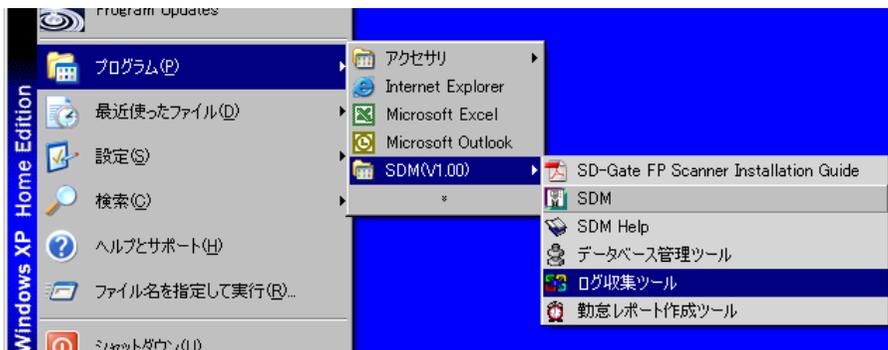


7.5 ログを自動的に取得する

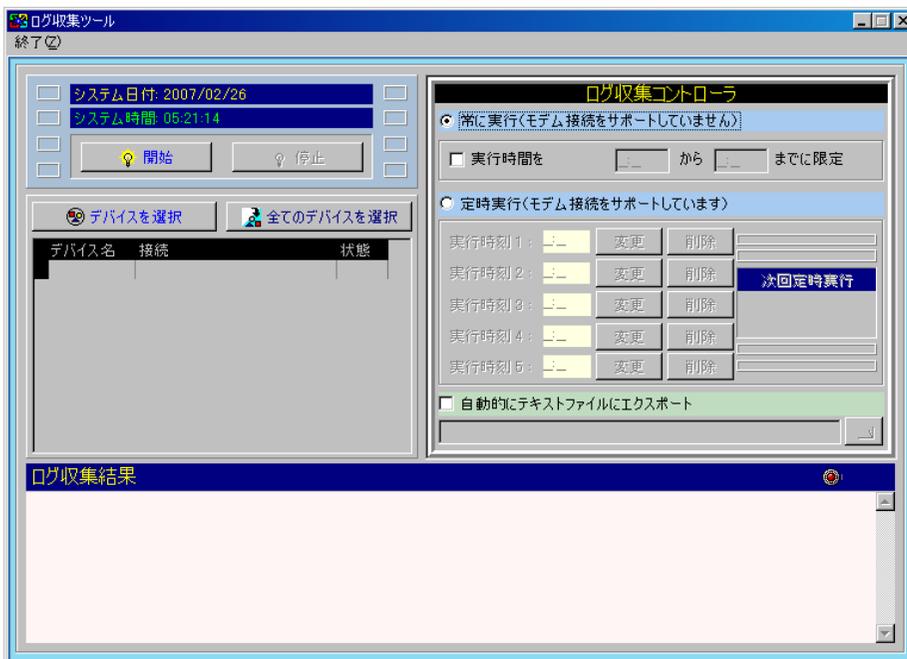
常時接続の場合、ログ収集ツールを使用すると、接続されている SD-Gate72 を常に巡回または定時に巡回して、最新のログを収集することができます。

注意: ログ収集ツールの実行中は、SDM を使用しないでください。アプリケーションが正しく実行されない場合があります。

- (1) Windows のスタートメニューより、プログラム > SDM > ログ収集ツール を選択します。



- (2) ログ収集ツールが起動します。



- (3) 画面左中段の[デバイスを選択]ボタンを押し、巡回する SD-Gate72 を選択します。



- (4) 画面右上段で、巡回の条件を入力します。



- ・[常に実行] 選択されたデバイスを常に巡回し、発生したログを収集します。実行時間帯を指定できます。
- ・[定時実行] 選択されたデバイスを、指定した時刻に巡回し、ログを収集します。
- ・[自動的にテキストファイルにエクスポート] チェックをいれておくと、最新のログを収集するたびに、指定のファイルに追加してエクスポート出力します。
エクスポートファイルの形式は「7.2 ログをエクスポートする」で指定した形式が適用されます。

- (5) 画面左上段の開始ボタンを押すと、デバイスの巡回が開始します。定時実行の場合は、指定の時刻になると巡回を開始します。



- (6) 巡回が開始後必ず、画面左中段でデバイスの状態を確認してください。[状態]の欄に START と表示されるデバイスは接続・巡回已成功しています。FAIL と表示されるデバイスがある場合は、そのデバイス接続に失敗しており、巡回されません。FAIL と表示される場合は[停止]ボタンで巡回をいったん停止し、該当のデバイスとの接続を確認してから、再度[開始]ボタンを押してください。

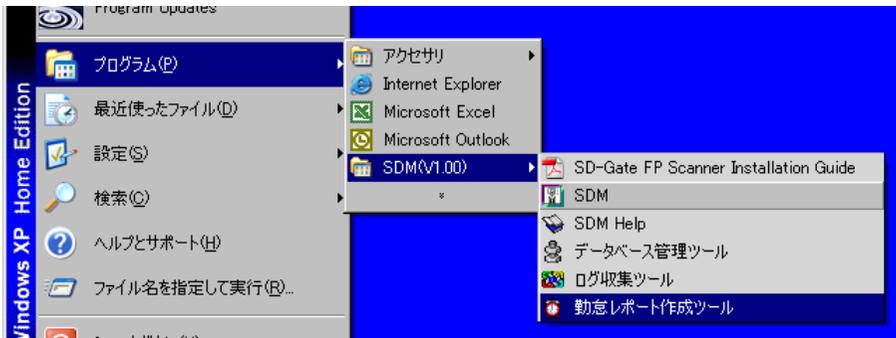


8 勤怠レポートの作成

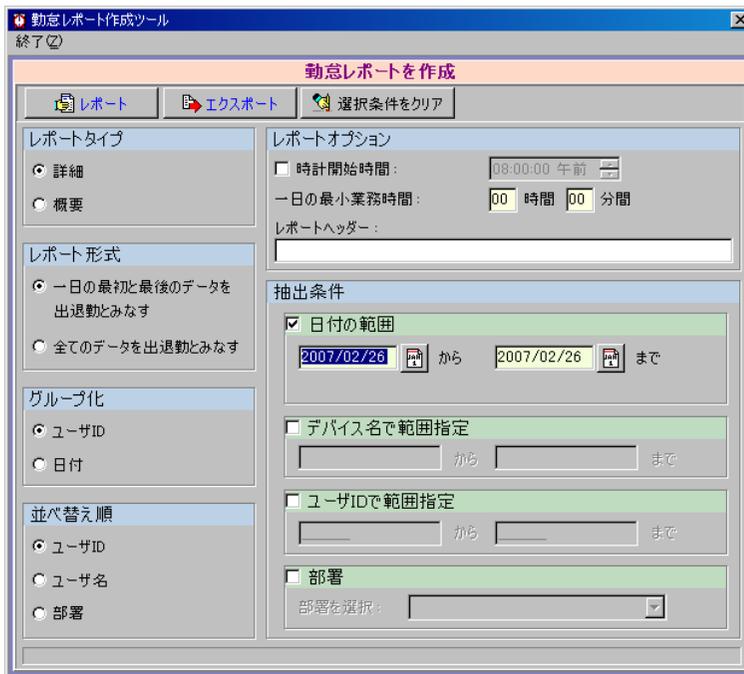
SDM データベースに収集したログを集計して、**勤怠レポート**を作成することができます。

8.1 勤怠レポートを作成する

(1) Windows のスタートメニューより、プログラム > SDM > 勤怠レポート作成ツール を選択します。



(2) 勤怠レポート作成ツール画面が表示されます。



- ・レポートタイプ [詳細] 抽出したログを1ユーザごとに1日分ずつ集計します。
[概要] 抽出したログを1ユーザごとに全日分集計します。日付の範囲を月・週単位にすることで、月ごと・週ごとの集計を行うことができます。

- ・レポート形式 [一日の最初と最後のデータを出退勤とみなす]

1ユーザの入室ログのうち、一日の一番早い時刻の入室ログを出勤時刻とし、一番遅い時刻の入室ログを退勤時刻とみなして勤務時間を集計します

[全てのデータを出退勤とみなす]

1ユーザの入室ログ1回ごとに、入室・退室とみなして勤務時間を集計します

[グループ化]

ユーザごとに集計するか、日付ごとに集計するかを選択できます

[レポートオプション]

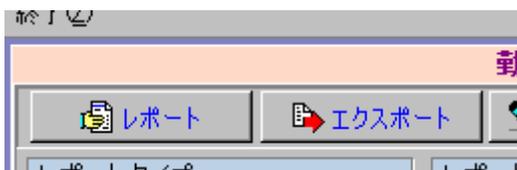
時計開始時間 この時刻より前に入室しても、勤務時間としては無効とみなします。

一日の最小業務時間

この時間を超過した勤務時間を超過勤務時間として集計します。不足した場合はマイナス集計されます。

[レポートヘッダー] 出力する帳票の見出しを指定します。

- (3) 条件等を入力し終わったら、画面上部の[レポート]ボタンを押します。印刷イメージ画面が表示されます。[エクスポート]ボタンを押すと、レポートの内容が CSV ファイルとなって出力されます。



[詳細]レポート出力例

出勤時間詳細レポート					2007/03/01 17:07:48
レポート形式：一日の最初と最後のデータを出退勤とみなす 一日の最小業務時間：1 時間 00 分間 時計開始時間：12:00:00					
日付の範囲：2007/02/01 から 2007/02/28 まで					
デバイス名で範囲指定：すべて					
ユーザIDで範囲指定：すべて					
部署：すべて					
ユーザID：1	リンクNo.:	名前：セキュア花子	部署：総務部		
日付	入室時間	退室時間	一日の合計入室時間	超過時間	
2007/02/22	15:28:27	15:34:25	0.10	-0.90	
合計：1			0.1	(+) 0	(-) -0.9
ユーザID：10001	リンクNo.:	名前：	部署：		
日付	入室時間	退室時間	一日の合計入室時間	超過時間	
2007/02/02	12:00:00		-1	-2.00	
合計：1			-1	(+) 0	(-) -2
ユーザID：10002	リンクNo.:	名前：	部署：		
日付	入室時間	退室時間	一日の合計入室時間	超過時間	
2007/02/01	12:00:00		0	-1.00	
2007/02/05	12:00:00		0	-1.00	
2007/02/06	12:00:00		-1	-2.00	
2007/02/08	12:00:00	15:41:51	3.70	2.70	
2007/02/09	12:00:00		0	-1.00	
2007/02/14	12:00:00		-1	-2.00	
2007/02/15	12:00:00		-1	-2.00	
2007/02/21	12:00:00		0	-1.00	
2007/02/22	19:45:51	19:52:49	0.12	-0.88	
2007/02/23	12:00:00	12:00:27	0.01	-0.99	

[概要]レポート出力例

出勤時間概要レポート						2007/03/01 17:12:06
レポート形式：一日の最初と最後のデータを出退勤とみなす 一日の最小業務時間：1 時間 00 分間						
日付の範囲：2007/02/01 から 2007/02/28 まで						
デバイス名で範囲指定：すべて						
ユーザIDで範囲指定：すべて						
部署：すべて						
ユーザID	リンクNo.	名前	部署	合計時間	合計超過時間	
1		セキュア花子	総務部	0.1	(+) 0	(-) -0.9
10001				0	(+) 0	(-) -1
10002				12.69	(+) 9.43	(-) -7.74
10003				9.65	(+) 6.65	(-) -5

- FAQ -

- 違う扉から出入りしても集計されますか？
集計されます。集計はユーザIDごとに行われますので、どのデバイスで認証を行っても集計対象となります。
- 時計開始時間とは何ですか？
時計開始時間とは、集計を開始する時間のことです。例えば、時計開始時間を 9:00 に設定しておきますと、8:30 に入室しても、勤務時間は 9:00 から集計され、開始時間前の 30 分は集計されません。

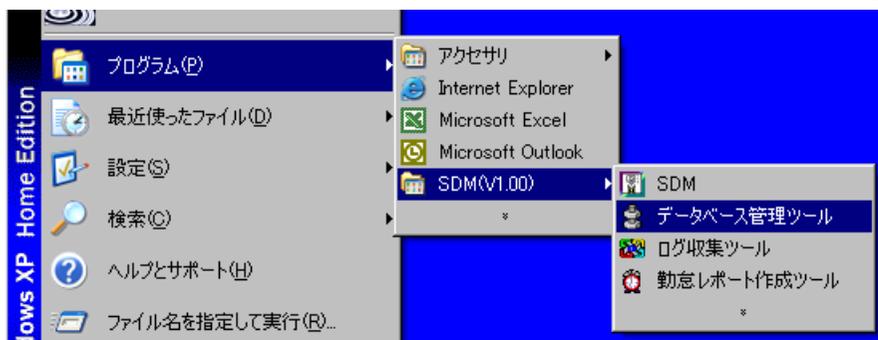
9 データベースの管理

SD-Gate72のデータベースはバックアップをとっておくと、データの破損などが起こった際にバックアップファイルからデータを復元することができます。またログデータの容量が多くなった場合なども、バックアップをとってから削除することで、データベースを軽量化することができます。また、定期的にデータベースの最適化を行うことで、データベースの無駄を省き最適な状態で利用することができます。データベースの定期的なメンテナンスをおすすめします。

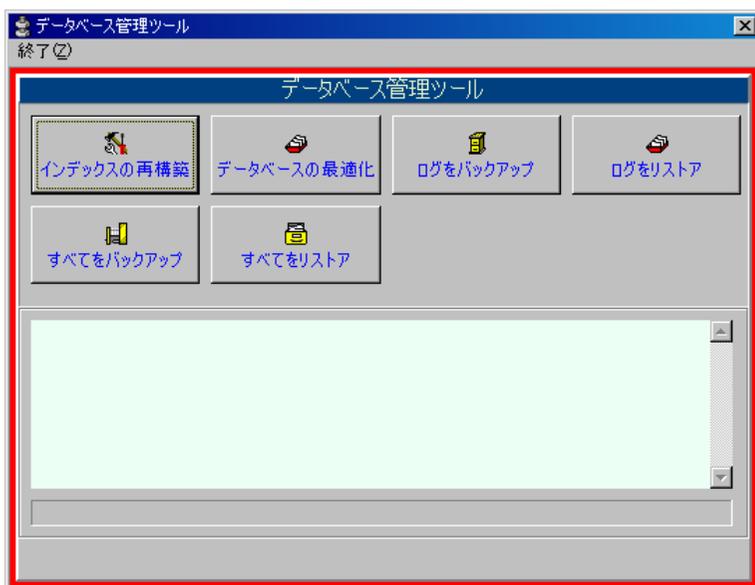
9.1 データベース管理ツールを使用する

注意：データベース管理ツールの実行中は、SDM を起動しないでください。アプリケーションが正しく実行されない場合があります。

(1) Windows のスタートメニューより、プログラム > SDM > データベース管理ツール を選択します。



(2) データベース管理画面が表示されます。



(3) データベース管理画面が表示されます。

- | | |
|--------------|---|
| [インデックスの再構築] | データベースのインデックスが破損した場合に使用します。 |
| [データベースの最適化] | データベースの無駄なスペースを取り除きます。定期的にご利用になることをおすすめします。 |
| [ログをバックアップ] | ログのデータベースをバックアップしアーカイブ化します。 |
| [ログをリストア] | バックアップしたアーカイブファイルから、ログデータを復元します。 |
| [すべてをバックアップ] | すべてのデータベースをバックアップしアーカイブ化します。 |
| [すべてをリストア] | バックアップしたアーカイブファイルから、すべてのデータベースを復元します。 |

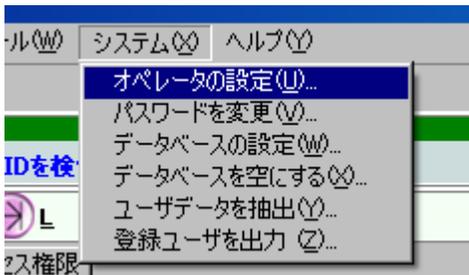
10 その他の機能

SDM をさらに安全で快適にご利用いただくための機能です。

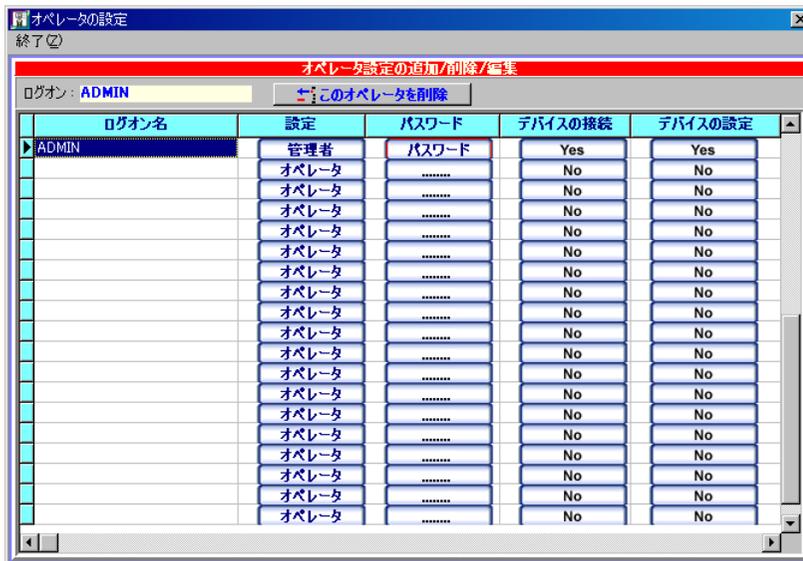
10.1 オペレータを設定する

SDM の使用者(オペレータ)を登録できます。オペレータの登録・削除を行ったり、どのオペレータがどの機能を使用できるかを登録することができます。

- (1) SDM の[システム]メニューより[オペレータの設定]を選択します。オペレータの設定画面が表示されます。



- (2) それぞれのセルをクリックすると、設定を行うことができます。



[ログオン名] SDM にログインするときの名前です。

[設定] SDM の使用権限です。[管理者]で登録されたオペレータのみ、このオペレータ設定画面を使用することができます。

[パスワード] パスワードの登録・変更を行います。

[デバイスの接続]～[カードをインポート]

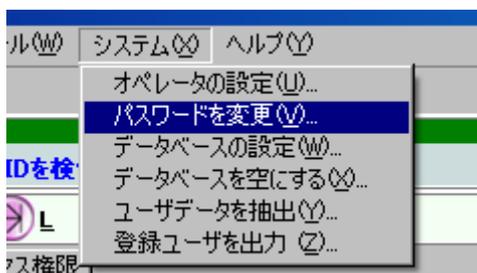
各機能の使用制限を設定できます。[Yes]だと使用可、[No]だと使用不可となります。

- (3) 設定し終わったら、[終了]をクリックして画面を閉じます。

10.2 パスワードを変更する

現在ログインしている SDM オペレータのパスワードを変更します。

- (1) SDM の[システム]メニューより[パスワードを変更]を選択します。



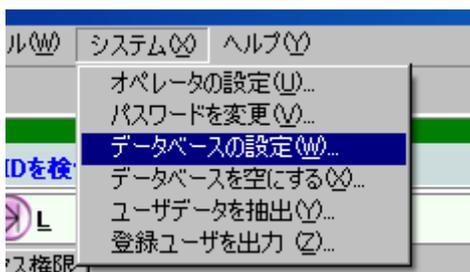
- (2) 現在のパスワードと新しいパスワードを入力し、[OK]ボタンを押します。



10.3 データベースの設定を変更する

SDM のデータベースのパスを変更します。パスを共有サーバに変更し、データベースを共有化すると、複数の PC に SDM をインストールして使用することができます。(詳しくは「3.3 2 台以上の PC で SDM を使用する場合」をご参照ください。)

- (1) SDM の[システム]メニューより[データベースの設定]を選択します。



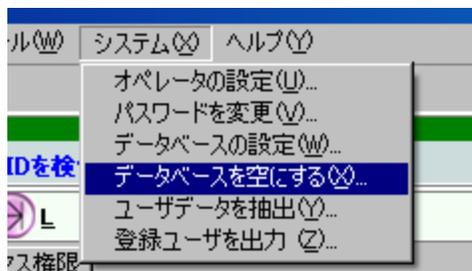
- (2) データベースの設定画面が表示されます。[参照]ボタンを押し、データベースのパスを指定します。



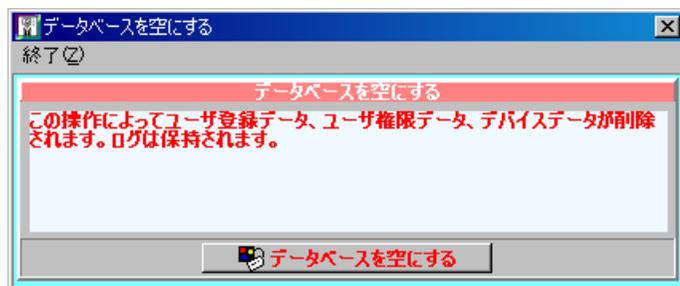
10.4 データベースを空にする

SDM のデータベースを空にします。ユーザ・デバイス・ログのすべてのデータが削除されます。

- (1) SDM の[システム]メニューより[データベースを空にする]を選択します。



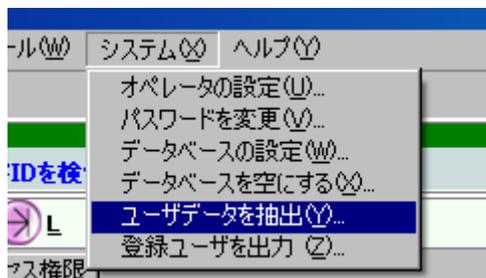
- (2) [データベースを空にする]ボタンを押します。



10.5 ユーザデータを抽出する

登録ユーザ数が多く、目的のユーザが見つげにくい場合などに使用します。

- (1) SDM の[システム]メニューより[ユーザデータを抽出]を選択します。



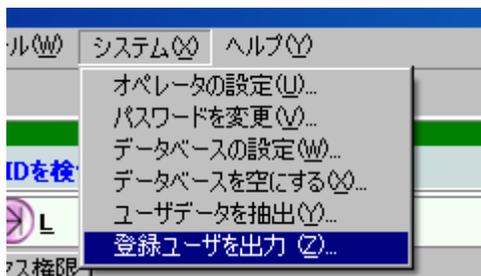
- (2) ユーザデータの抽出条件を入力し、[OK]ボタンを押します。



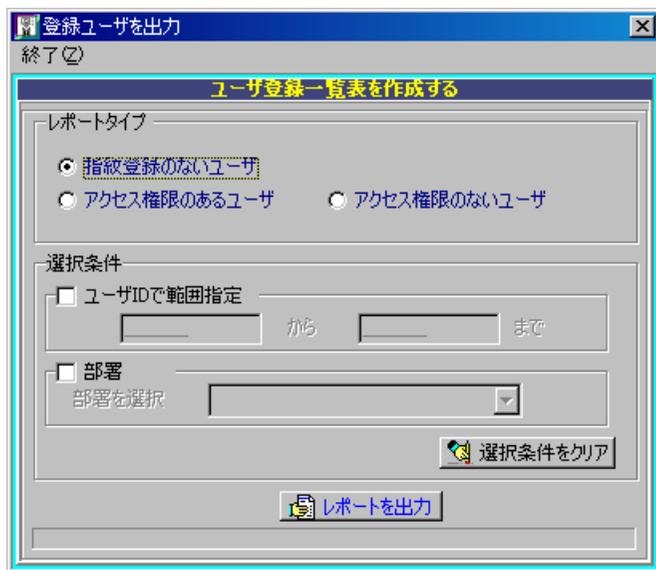
10.6 登録ユーザを出力する

指紋登録のないユーザ・アクセス権限のないユーザ・アクセス権限のあるユーザを、それぞれレポート形式で出力します。

- (1) SDM の[システム]メニューより[登録ユーザを出力]を選択します。



- (2) レポートタイプ、選択条件を入力し、[レポートを出力]ボタンを押します。



索引

あ

IC カード	28, 30
IP アドレス	14, 20
アクセス権限	37
アンインストール	10

い

ECom	14, 20
イーサネット接続	20
イーサネット通信	12, 14
インストール	6

え

SDM クライアント	8
SDM サーバ	8

お

オペレータ	7, 66
-------------	-------

き

勤怠レポート	61
--------------	----

こ

COM ポート	12, 16, 18, 30
---------------	----------------

し

指紋	28, 34
シリアル接続	15
シリアル通信	12

そ

ゾーン	18, 23
-----------	--------

て

データベース	8, 46, 50, 64, 68, 69
デスクトップ指紋スキャナ	6, 10, 15

デバイス	2, 12
デバイスID	18
デバイスマネージャ	30
telnet	20

と

同期	46
時計	24

は

ハードキー	6
パスワード	9, 16, 21, 66, 67

ゆ

ユーザ	28, 70
ユーザ ID	31, 32, 34, 48
ユーザデータの転送	46
ユーザのインポート	44
ユーザのエクスポート	43

ら

LAN	14
-----------	----

り

リンク No.	32
--------------	----

れ

レポート	61, 71
------------	--------

ろ

ログ	26, 52
ログイン	21, 66
ログオプション	27
ログ収集ツール	58
ログタイプ	56
ログのエクスポート	54, 59
ロケーション	18, 23

